

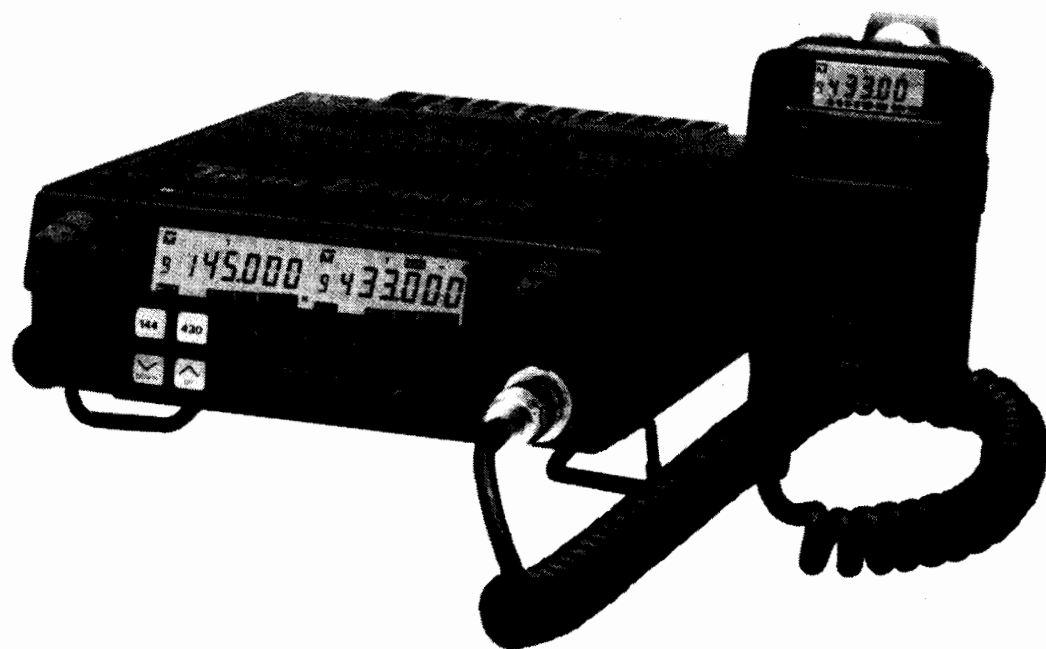
通信機は **入974-D**



TWIN BANDER

C5600/C5600D

取扱説明書



日本マランツ株式会社

このたびは、144MHz・430MHz FMツインバンドトランシーバーをお買上げいただきまして誠にありがとうございます。

本機は、当社の厳重な品質管理および検査のもとに生産、出荷されておりますが、万一不審な点、お気付きの点などがありましたら、なるべくお早目にお買上げいただいた販売店あるいは弊社営業所、サービスセンターへお申し付けください。

この取扱説明書は、C5600およびC5600Dを共通説明していますが、内容に相違がある部分については、説明を併記しましたのでご注意ください。

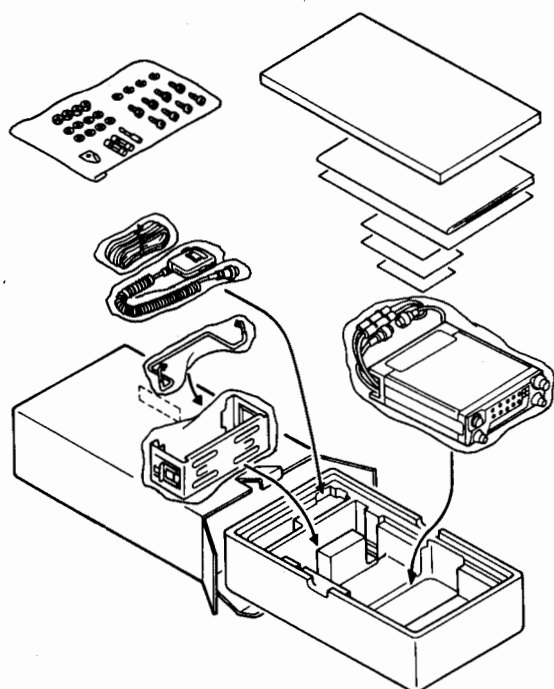
なお、C5600Dの送信出力は、VHFが50W、UHFが40Wですので、C5600Dをご使用になる場合は、第2級アマチュア無線技士以上の資格と、10Wを超える局の免許が必要です。

本機の性能を十分に発揮し、末永くご愛用いただくためにご使用の前に、この取扱説明書を最後までよくお読みくださるようお願い致します。

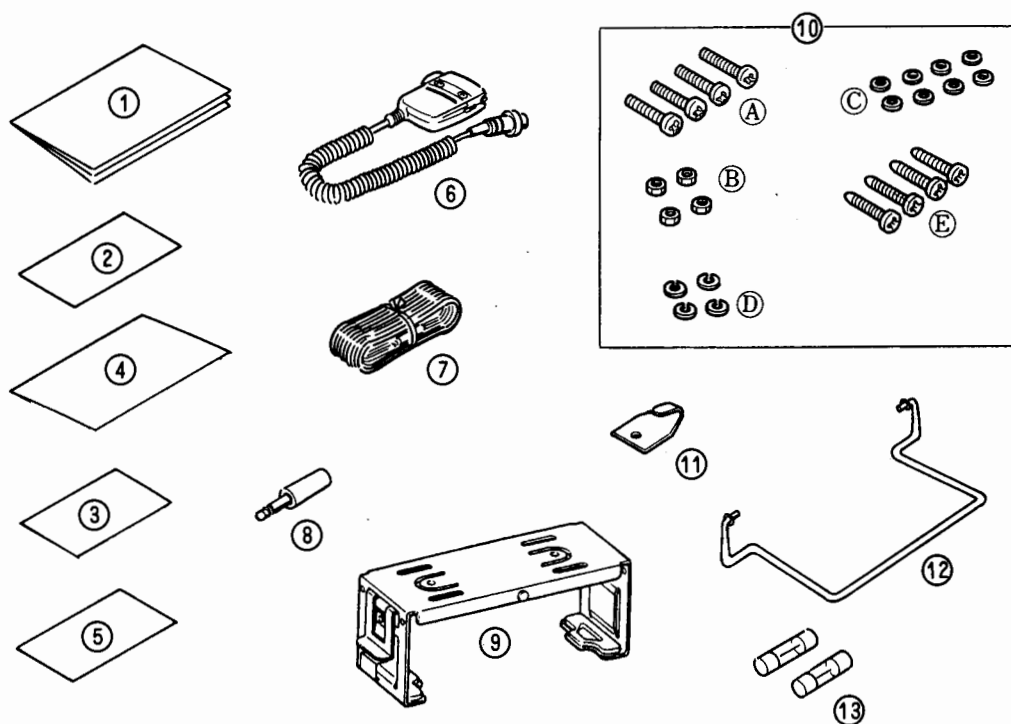
この無線機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許が必要です。また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。本機は国内仕様です。外国では使用出来ませんのでご注意ください。

目次

梱包図／付属品	2	その他の機能	52
ご使用上の注意	3	1. スキャン機能	53
車への取付け方法	4	2. 受信音の音量を下げるオートミュート動作	54
固定局で使用される場合	9	3. 表示部の明るさを変える	54
ご使用の前に	11	4. 操作ボタンを無効にするキーロック機能	55
各部の名称と動作説明	14	5. リモコンマイクのKL	55
本体	14	6. SETモード	55
リモコンマイク	25	7. 周波数表示を消す機能	57
操作方法	31	8. 送信出力の切り換え	57
1. 呼出し周波数運用	32	9. DTMF機能	58
2. レピーター運用	34	定格	61
3. メモリー周波数の運用	37	フォーンバンドについて	62
4. トーンスケルチ運用	44	申請書の書き方	63
5. ページング機能運用	45	故障とお考えの前に	64
		アクセサリ	65
		保証アフターサービス	65
		操作ボタン一覧表	67



- ①取扱説明書..... 1
- ②保証書..... 1
- ③営業所一覧表..... 1
- ④回路図(ブロックダイアグラム含む)..... 1
- ⑤愛用者カード..... 1
- ⑥マイクロホン(CMP839)..... 1
- ⑦電源コード(赤・黒)2.0m 1
- ⑧φ3.5プラグ(EXT. SPKR用) 1
- ⑨本機固定ブラケット..... 1
- ⑩モバイルブラケット止めビス関係.....一式
 - ①A ボルト(M5mm×20mm) 4
 - ②B ナット(M5mm) 4
 - ③C ワッシャー(M5mm) 8
 - ④D スプリングワッシャー(M5mm) 4
 - ⑤E タッピングビス(M5mm×15mm) 4
- ⑪マイクハンガー..... 1
- ⑫スタンド(無線機用)..... 1
- ⑬予備ヒューズ C5600は5 A 2
C5600Dは12A 2

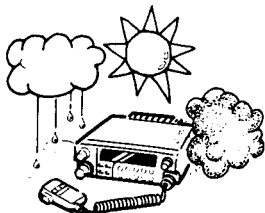


ご使用上の注意

設置場所

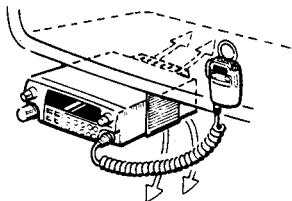
本機の設置場所として次の点に留意してください。

- ① 高温、多湿、ほこりの多い場所、特に日光が直接当たる場所は避け、風通しのよい乾燥した場所に設置してください。



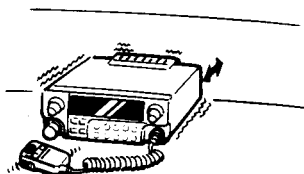
- ② ヒートシンクの冷却効果を妨げないよう、背面および底面には十分スペースをとってください。

長時間使用のときは、無線機本体が温かくなりますが使用上支障ありません。



- ③ 車に取付ける際には、本機の背面が直接シートに触れないようにするなど放熱には十分配慮してください

また、なるべく振動を受けない場所や状態での運用を心がけてください。



電源について

- ① 本機はDC12V仕様車用です。大型車など24V系のバッテリーには使用できませんのでご注意ください。



- ② 絶対AC100Vには接続しないでください。

車への取付け方法

① 取付け場所

本機の取付け場所は、ダッシュボードの下、コンソールボックスの横および計器類の下などをおすすめします。

注意

次のような場所への取付けはさけてください。

- ヒーターやクーラーの吹出しダクトの近く
- 直射日光のあたる場所
- 振動の多い所
- 自動車本体の電子回路の近く
- その他安全運転に支障を来す場所

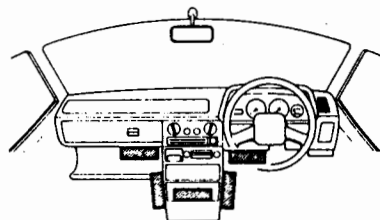


図1 車への取付け位置

② ブラケットの取付け方法

ブラケットを取付ける場合、ブラケットがしっかり固定される場所を選び、付属のボルト、ビスでしっかり固定してください。

- ブラケットの取付け穴加工型紙は、67ページに記載されていますのでご利用ください。

① M5mmの六角ボルトを使用する場合は、 $\phi 5.2 \sim \phi 5.5\text{mm}$ 、またM5mmのタッピングビスを使用する場合は、 $\phi 4.0 \sim \phi 4.3\text{mm}$ の穴をドリルであけてください。

② 本機固定ブラケットを図2のように車体に取り付けます。

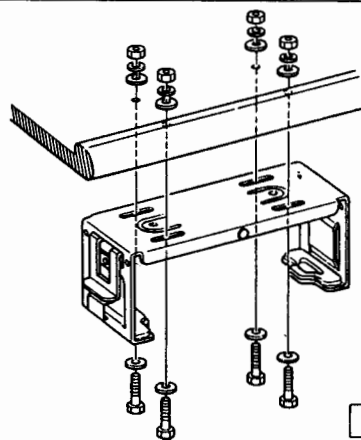
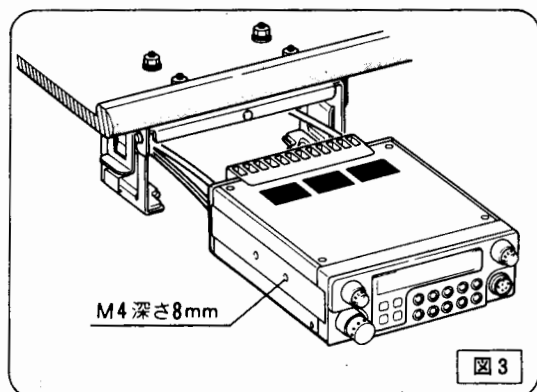


図2

- M5mmの六角ボルトを使用する場合は、平ワッシャーにボルトを通して内装側より平ワッシャー、スプリングワッシャー、次にナットを通して固定します。

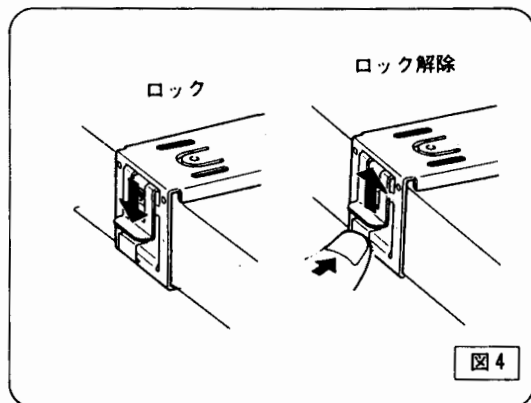
- M5mmのタッピングビスを使用する場合は、平ワッシャーにタッピングビスを通してネジ込んでください。ネジ山が自動的に切り込まれて固定されます。

- ④本機の後面パネルからの同軸ケーブルおよび、電源ケーブルとアンテナからの同軸ケーブルおよび、電源からの電源ケーブルを接続します。



- ⑤本機をブラケットに入れ、図4のように左右のレバーを下方方向に押し下げると本機が固定されます。

- 本機をブラケットに入れる前に、レバーがスプリングよりはずれていることを確かめてください。
- 本機をはずす場合は、レバー下部のスプリングを押すとはずれます。



注意

ブラケットに本機を入れる前に、電源コード、同軸ケーブルは接続しておいてください。

③ 電源ケーブルの配線について

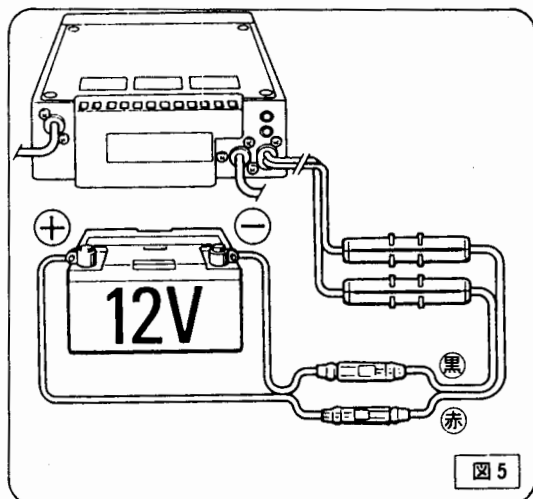
- ①本機への電源供給は、自動車のバッテリーより行います。
- ②自動車のバッテリーと本機との接続は、付属されている 2.0mの電源コードを使用し、図5のように行ってください。

注意

本機は12V仕様車ですので、24V仕様車で使用される場合は、24Vを12Vに変換するDC-DCコンバーターを必ずご使用ください。

長時間車を使用しない時は電源コードを外しておいて下さい。

バッテリー上がりの原因となります。



③イグニッションスイッチと連動させる場合は、

図6、図7のように行ってください。

- 電源用赤コード⊕は、車のイグニッションキーを通った後の12V⊕端子に接続します。
- 黒コード⊖は、12V⊖端子に接続します。

この配線により、バッテリーの消耗が予防できます。

注意

ヒューズはC5600の場合は5A、C5600Dは12A定格のものを必ずご使用ください。電源コードの接続作業は、ゴム部のカシメ部分を持って行ってください。

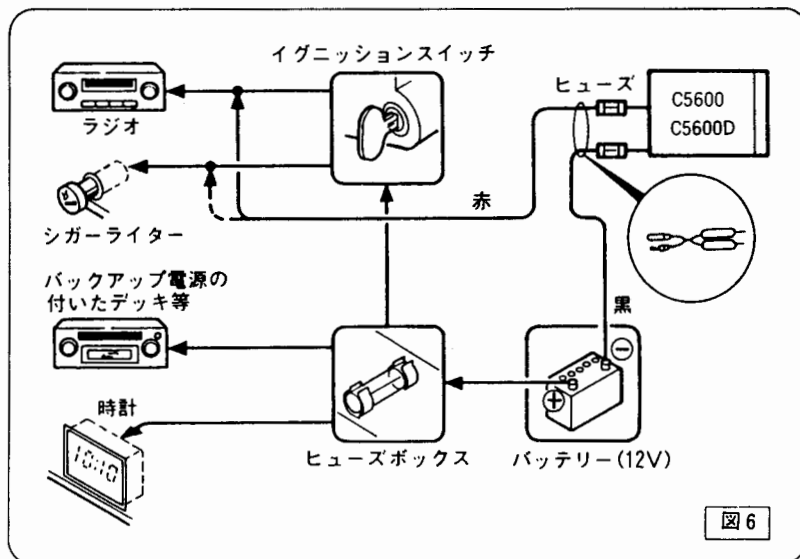
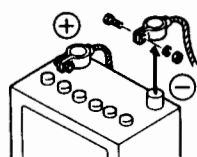
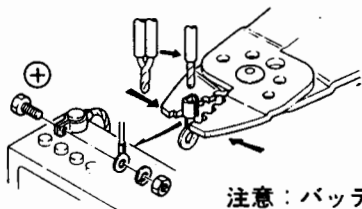


図6



注意：作業を行う前に必ずバッテリーの⊖端子をはずしてください。



注意：バッテリー端子がゆるまないようにスパナ等でしっかりと締めつけてください。プラス⊕側の作業完了後は、外したマイナス側のコードをもと通りしっかりと締めつけてください。

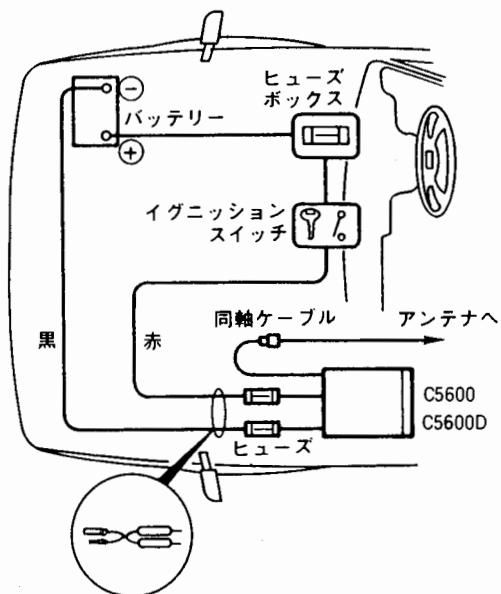


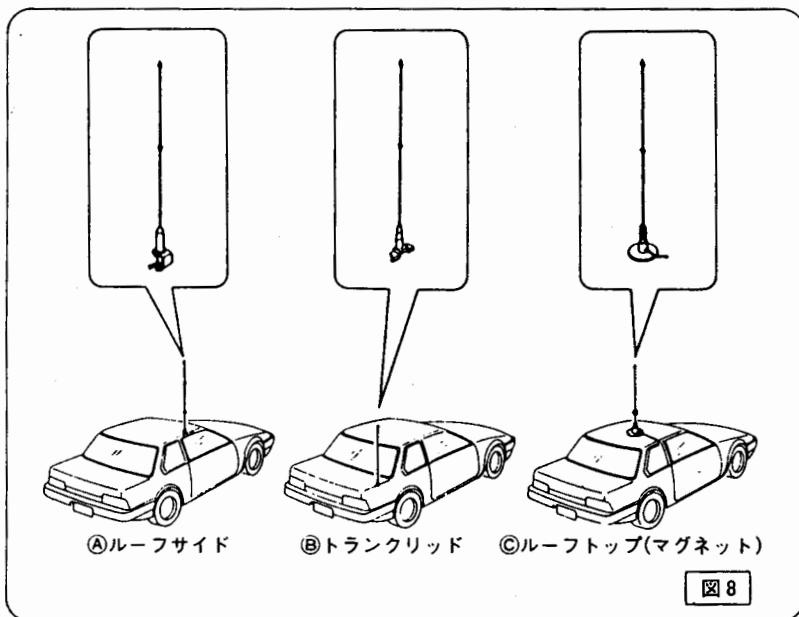
図7

④ アンテナの取付けについて

①車載用アンテナの取付け場所と、取付け場所にあったアンテナ基台は図8のような種類がありますので、取り付けるアンテナおよび車種に合ったアンテナ基台をお選びください。

②アンテナ基台には、同軸ケーブルがついています。この同軸ケーブルは、電波が通る大切なケーブルですのでキズなどつけたり、押しつぶしたりしないよう取扱いに十分気をつけてください。

③同軸ケーブルを車内に引込むときは、図9のようにしてください。

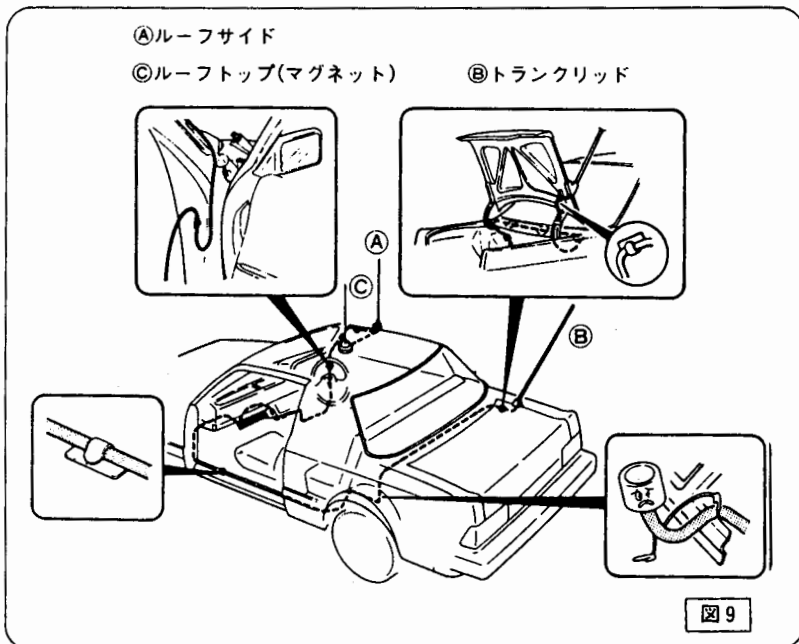


注意

●本機の機能を十分に発揮していただくためにも特性の優れたアンテナをご使用ください。アンテナのSWRは1.5以下になるようアンテナを調整し使用してください。SWRが悪いと正規の送信電力が出なくなります。

●アンテナ基台を取付けるときは、アンテナ基台と車体のアースが完全にとれるようにしてください。

●同軸ケーブルの引込み部は、雨水が車内に入らないよう十分ご注意ください。またドアの開閉、窓の開閉などで同軸ケーブルが損傷しないよう固定してください。



●アンテナは、周波数に合わせてありますので、切断および加工等はいしないでください。またアンテナが不備ですと、正規の送信電力が出なくなったり、受信がしづらくなることがあります。

⑤ アンテナ接続について

無線機の送信および受信性能は、使用するアンテナの種類またはアンテナの特性によって大きく左右されますので、144MHzおよび430MHz帯の運用目的、アンテナの設置条件などを考慮してお選びください。

①独立したアンテナに接続する場合（図10）

- ① 本機の144MHz帯用同軸ケーブルに、144MHz帯のアンテナからの同軸ケーブルを接続します。
- ② 本機の430MHz用同軸ケーブルに、430MHz帯のアンテナからの同軸ケーブルを接続します。

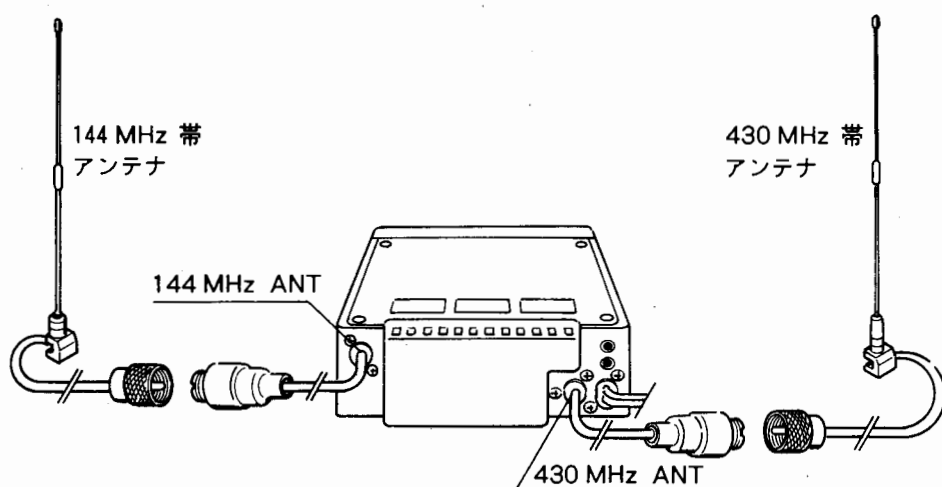


図10

②共用アンテナに接続する場合（図11）

- ① 144MHz帯、430MHz帯共用アンテナを使用する場合は、144MHz、430MHz帯用デュープレクサーが必要になります。

デュープレクサーにアンテナからの同軸ケーブルと無線機からの同軸ケーブルを正しく接続してください。（デュープレクサーの取扱説明書をお読みにになり正しくご使用ください。）

注意

共用アンテナのなかには、デュープレクサーが内蔵されているものがありますので良くたしかめて購入してください。

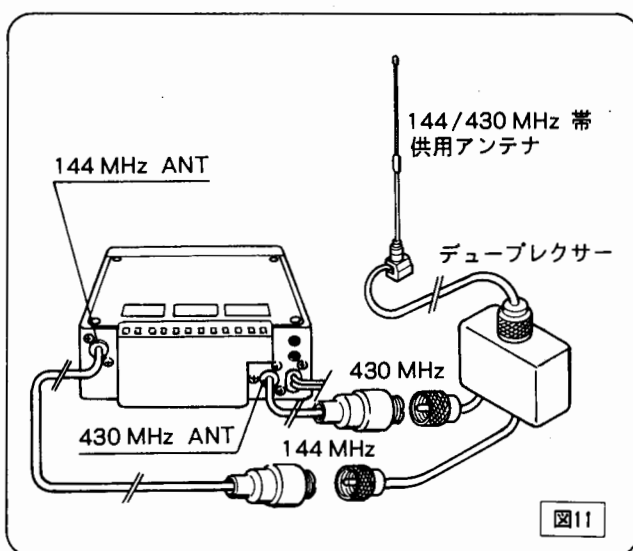


図11

固定局で使用する場合

① 安定化電源について

固定局として、ご家庭などの交流電源により、C5600/C5600Dを使用される場合は、以下に示す定格を満たすものをご使用ください。

C5600……………DC出力 13.8V

出力電流 4.5A以上

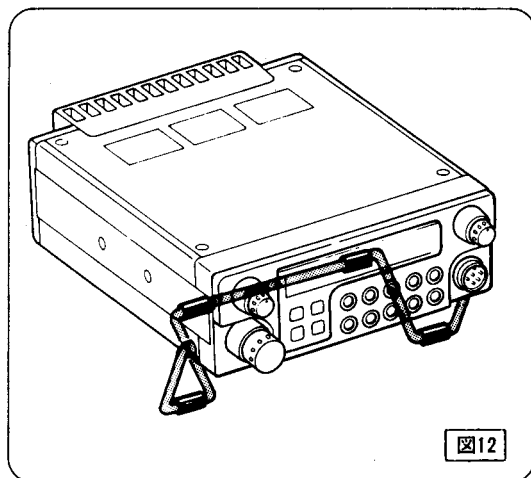
C5600D……………DC出力 13.8V

出力電流 12A以上

であり、電圧変動およびリップルの少ないものの。

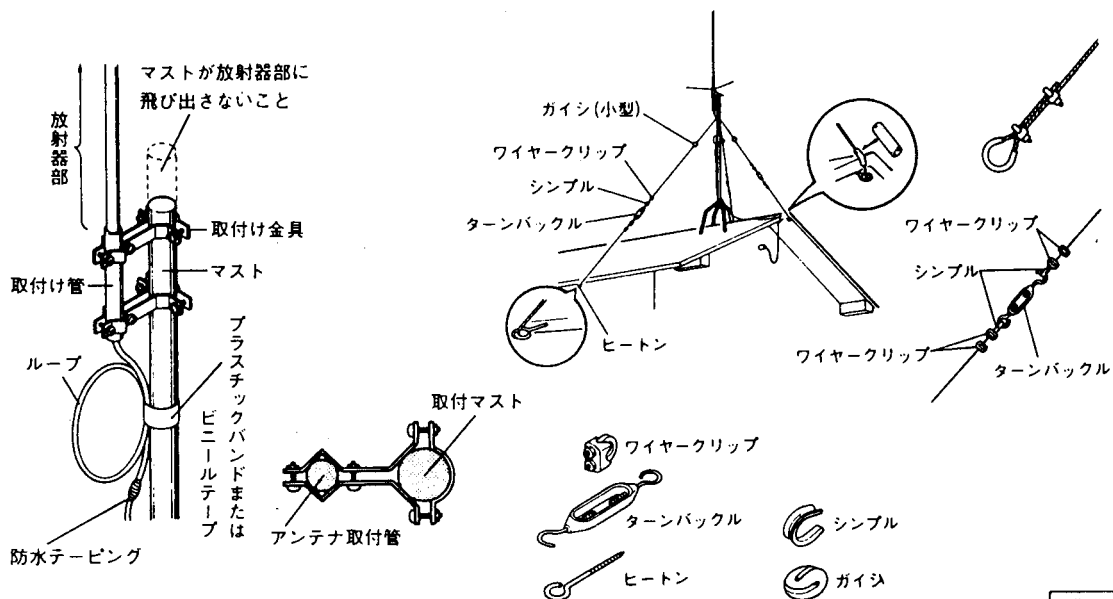
卓上で使用される場合

本機を固定機としてご仕様されるときは、付属のスタンドを図12のように本機にセットしてご使用ください。



② アンテナの設置について

＜一般的なアンテナの取付け状態＞



ローカルQSO用にはグラントプレーンアンテナ（無指向性）が適していますし、遠距離とのQSOには指向性の有る（八木アンテナ）が適していますので目的および用途に合ったアンテナをお選びください。

アンテナから本体までの同軸ケーブルが長くなり過ぎますと、同軸ケーブルでの損失が大きくなりますので、同軸ケーブルはなるべく最短距離を通すようにしてください。アンテナの給電部から、無線機までの長さが10mまでですと8D2V、30mまででは10D2V以上の太い同軸ケーブルをご使用ください。

①家屋の上に取付ける方法

取付け状態は図14が一般的な姿です。

垂直型アンテナ等を使用する場合は、同軸ケーブルをアンテナの直下でループ（たるみ）を作り、アンテナ自体に同軸ケーブルの自重が加わらないようにしてください。

またコネクターの雨よけや、ケーブルの固定方法については、アンテナの取扱説明書をご参照ください。

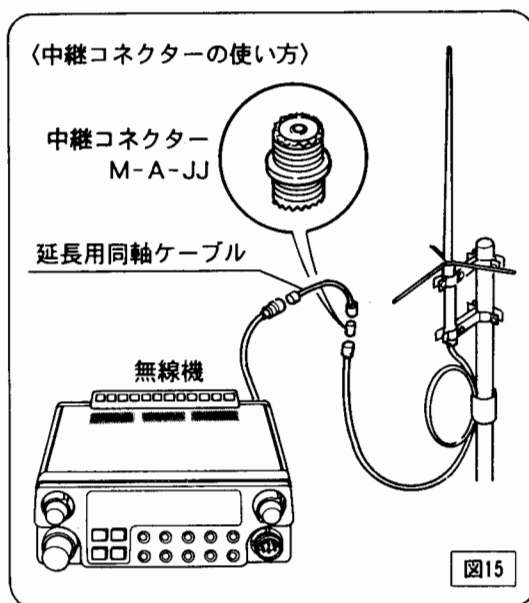
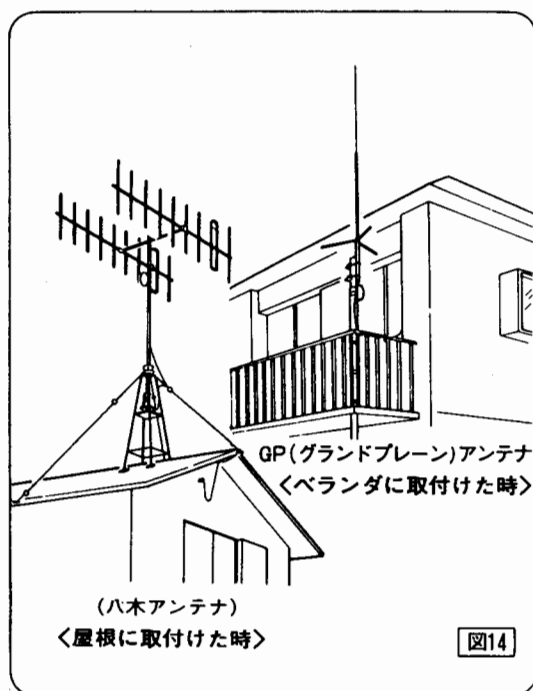
図13に家屋の上に設置するときの一例を示しましたが、詳しくは販売店あるいは当社営業所、サービスセンターにご相談ください。

②接続部の防水対策は、自己融着テープを引っぱりながら2重に巻き、その上を再度ビニールテープ等で巻いてください。

③固定局用アンテナからC5600、C5600Dまでのケーブル接続でケーブルが足りなくなりましたら、延長用同軸ケーブルを使用してください。プラグの接続には、両端がジャック・ジャックのもの（M-A-JJ）を使用します。

注意

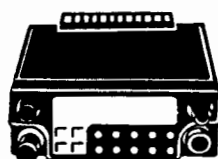
- 1.アンテナが倒れたり、強風で飛ばされたときなど周囲の人家に危害を加えないよう、支線の張りかたなどに十分配慮してください。
- 2.同軸ケーブルは、できるだけ最短距離で配線してください。



ご使用の前に

1. マイクロホンについて

本機の操作は、下図のように本体と付属のリモコンマイク（CMP839）にて行えます。



本体



リモコンマイク

注意

リモコンマイクを本体に接続又は、取り外すときは本体の電源を切ってから行ってください。

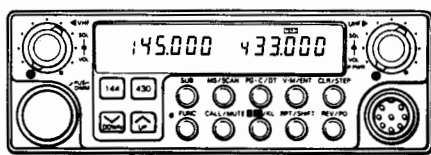
2. 電源スイッチについて

本体右側のツマミを押すと、電源のON, OFFができます。

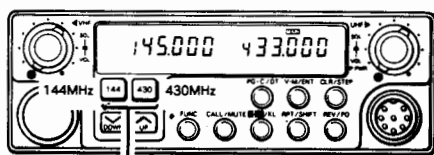
又、リモコンマイクで電源をON, OFFすることもできます。

3. 表示部について

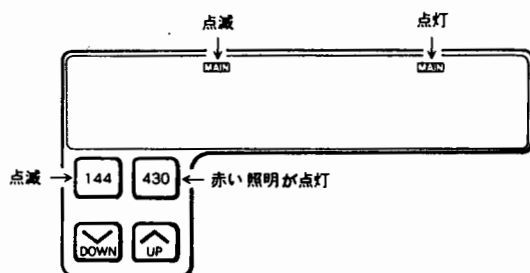
- ① 表示部は、右側が430MHz帯、左側が144MHz帯を表示します。



- ② メインバンド、サブバンドについて
 イ) MAINが表示されている側をメインバンドと表します。
 ロ) MAINが表示されていない側をサブバンドと表します。



バンド切り替えボタン



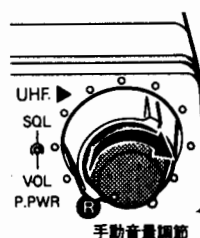
サブバンドモードにすると、サブバンド側の各種機能を操作することができます。

メインバンドの時バンド切り換えボタンが赤色になり、SUBバンドの時緑色になります。

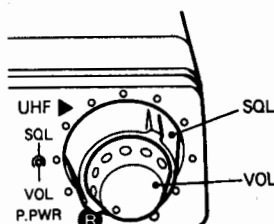
サブバンドモードの時、144又は430ボタンの照明が点滅します。

4. 音量調節について

- 各バンドの音量調節ツマミを時計方向に回して、受信音が適音になるようにしてください。
- 各バンドの音量調節ツマミを反時計方向に回し切ると、(カチッと音がします。)リモコンマイクにて音量調節が出来るリモコン音量調節モードとなり、リモコンマイクのVOLボタンを押した後、リモコンマイクの▲▼ボタンを押すと音量調節ができます。



手動音量調節



リモート音量調節

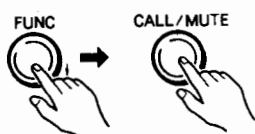
5. 操作について

① 直接操作する方法

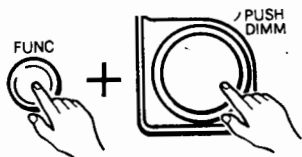


② ファンクションモードで操作する方法 (FUNCボタン左側の緑色LEDは点灯している状態)

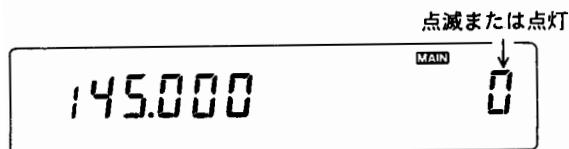
(リモコンマイクの表示部にFUNCが表示されている状態)



③ FUNCボタンを押しながら操作を行う方法



④ SET (セット) モードにする方法



6. ビープ音について

ビープ音で各ボタンが正しく操作されたかどうかを確認できます。

ビープ音は動作により、下記のように分けられています。



各操作ボタンが正しく操作された時の音です。



正しく操作が完了した時の音です。

(例：メモリーに周波数の書き込みが完了した時)



正しく操作されなかった時の音です。



ページャー機能で受信した時の音です。



VOL.モード解除、または、オートレピータ再設定した時の音です。



DTMFモニター音

7. 本書をよりわかりやすくお読みいただくために

★本機は、本体と付属マイクCMP839（以下リモコンマイクと表わします。）との操作方法があります。

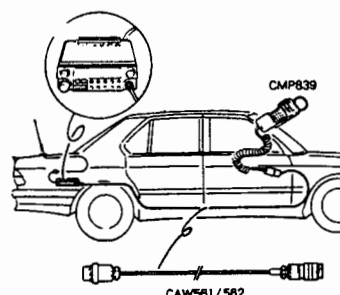
★操作例は430MHz帯を用いています。

この説明書は、次の様な決まりのもとに作られています。

マ ー ク	マ ー ク の 意 味
	本体のみの操作となります。
	リモコンマイクのみの操作となります。 イラストの()内はリモコンマイクによる操作です。
	本体とリモコンマイク両方の操作となります。

ちょっと一言!! 楽しい使い方

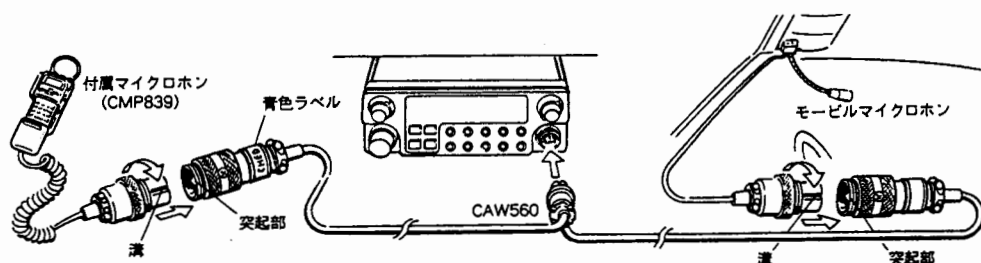
★ C5600 / C5600D は、付属のマイクロホン（CMP839）ですべてのコントロールができ、周波数も確認できる（メインバンドのみ）ため、別売品の延長マイクロホンケーブルCAW561/562を使用すると、C5600本体をシートの下やトランクルームなどに設置して運用ができます。

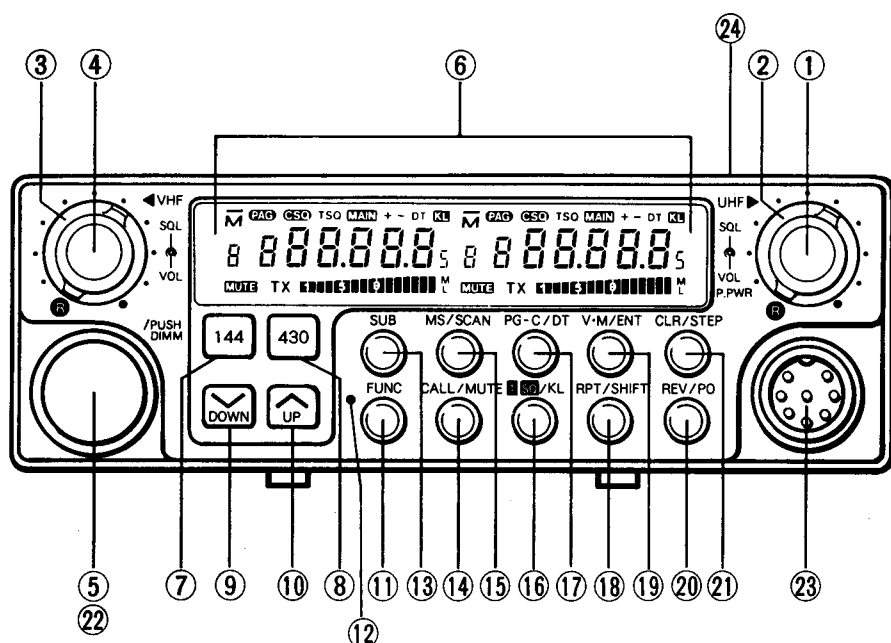


★別売品のCAW560（デュアルマイクロホンケーブル）を使用すると図のように一方はCMP839で運用し、もう一方のコネクターにはモバイル用セーフティマイクロホン等を接続し2つのマイクロホンで運用する事ができます。

注意

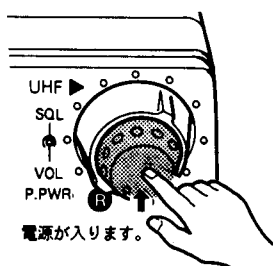
- 1, モービルマイクロホン側での周波数UP/DOWN等の、マイコンコントロールはできません。
- 2, 延長ケーブルどうしの接続は最大6m(CAW561 + CAW562)でご使用ください。
- 3, 高周波ケーブルと延長ケーブルはできるだけ離して設置してください。



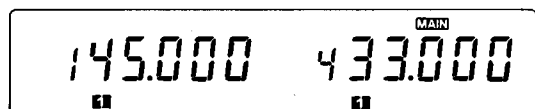


① VOL P.PWR [R] [電源スイッチ/音量調節ツマミ・リモコン音量調節スイッチ (430MHz 帯用)]

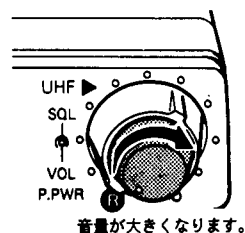
電源のON, OFF 及び 430MHz帯の音量調節と、リモコンマイクによる音量調節のON, OFFを行うツマミです。ツマミを一度押すと電源がONになり、もう一度押すとOFFになります。



□ 梱包を開いて最初に電源スイッチを ON にすると下図のように表示部に表示されます。



□ ツマミを時計方向 (↻) に回すにしたがって音量が大きくなります。
ツマミを反時計方向 (↻) に回すにしたがって音量が小さくなります。



□ ツマミを反時計方向 (↻) に回しきると、カチッという音がしてリモコンモードとなり付属のCMP 839により430MHz帯の音量調節がリモコンマイクを使って行えます。

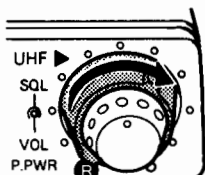
② SQL [スケルチつまみ (430MHz帯用)]

430MHz帯用のSQLつまみです。

FM特有の“ザー”というノイズを消すつまみです。

音量調節つまみを時計方向に回すと、“ザー”音がスピーカーより出ます。次に時計方向にゆっくり回し“ザー”というノイズが聞こえなくなる所で止めてください。

(初期設定では反時計方向に回し切っております。)

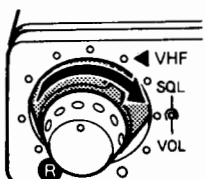


雑音が消えます。

③ SQL [スケルチつまみ (144MHz帯用)]

144MHz帯用のSQLつまみです。

430MHz帯用SQLつまみと同じ動作をします。



雑音が消えます。

注意

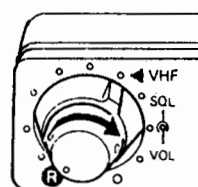
1. SQLつまみを時計方向（↻）に回しすぎないでください。弱い信号が受信できなくなります。
2. スキャン動作を行うときは、SQL調節完了状態（ザーというノイズが聞こえない）にしておいてください。
3. SQLつまみの調節は、空きチャンネル（使われていない周波数）で行ってください。

④ VOL [音量調節つまみ・リモート音量調節スイッチ (144MHz帯用)]

144MHz帯の音量調節とリモコンマイクによる音量調節の設定および解除を行うつまみです。

□つまみを時計方向（↻）に回すにしたがって音量が大きくなります。

つまみを反時計方向（↺）に回すにしたがって音量が小さくなります。



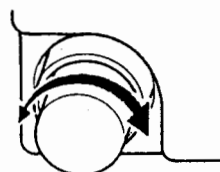
音量が大きくなります。

□つまみを反時計方向（↺）に回しきるとカチッという音がして、144MHz帯の音量調節がリモコンマイクを使って行えます。

⑤ メインダイヤルつまみ

メインダイヤルつまみは、周波数を変える機能と表示部の照明を変える機能(DIMM)があります。

□メインダイヤルつまみは、時計方向（↻）に回すと周波数が高くなり、反時計方向（↺）に回すと周波数が低くなります。



周波数が低くなります。

周波数が高くなります。

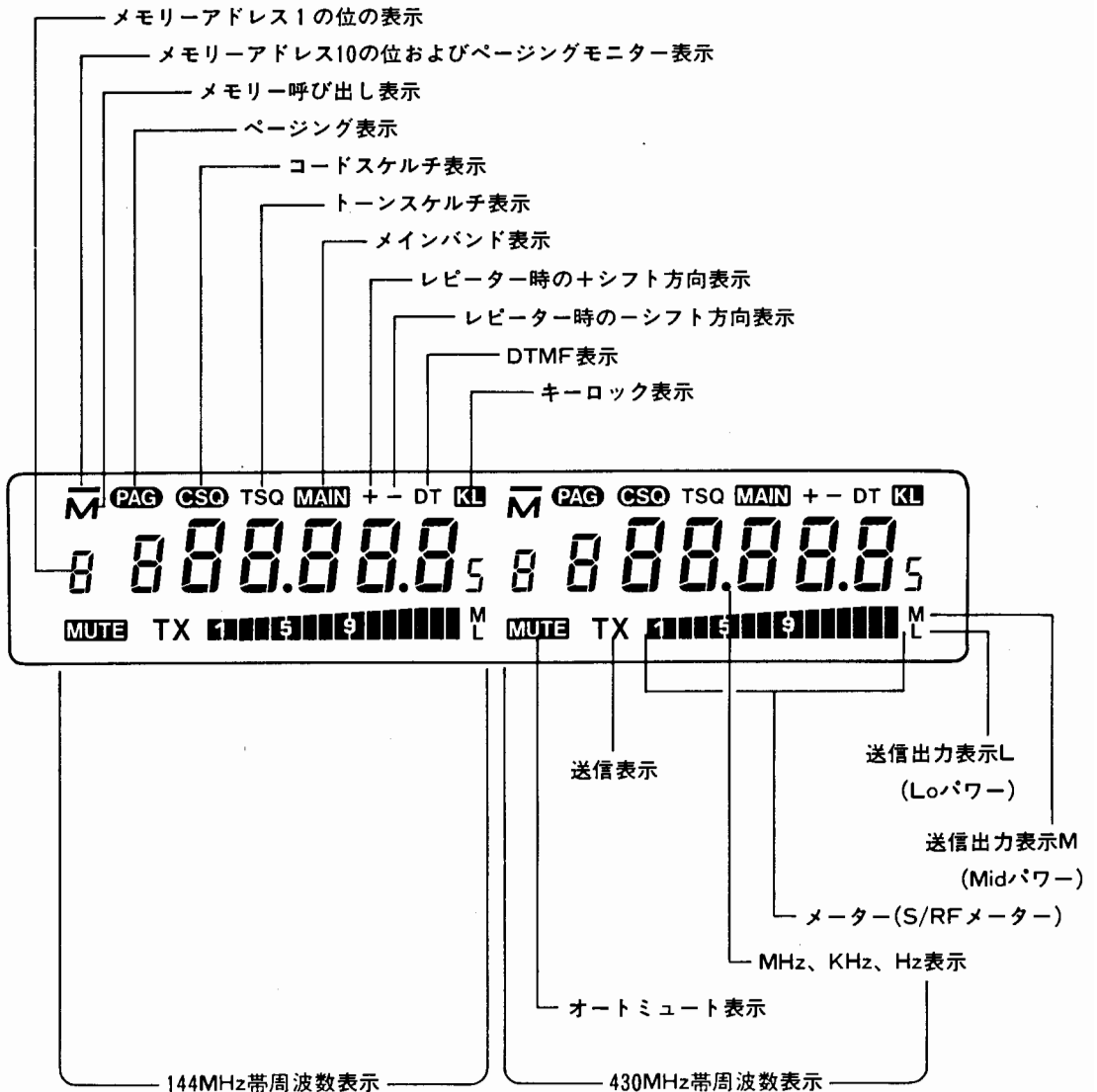
□FUNCボタンを押しながらメインダイヤルつまみを押すと、表示部が暗くなります。もう一度押すと、元の明るさに戻ります。

□送受信周波数は、144MHz帯と430MHz帯と別々に変えることができます。

また、メインバンドで送受信しながら、SUBバンドの周波数を変えることもできます。

⑥ 表示部

表示部は大きくて見やすいLCD（液晶表示）を採用し、周波数表示部は144MHz帯と430MHz帯を独立させ、同時受信ができるツインバンダーの威力を十分発揮できるように設計されています。



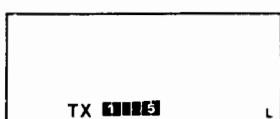
■ S/RFメーターについて

信号強度動作 (Sメーター)

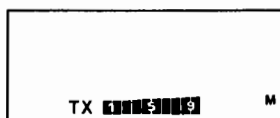


入力信号の強弱により左側より右側に向かって点灯してゆきます。

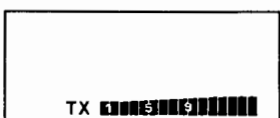
送信出力動作



Low Power送信状態のときは、6個点灯します。

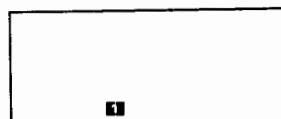


Mid Power送信状態のときは、10個点灯します。



Hi Power送信状態のときは、全て点灯します。

BUSY動作



受信動作で、スケルチ回路が開いた時点灯します。Sメーターの左側2個が点灯している時は、スケルチが開いている状態です。また、2個が消えているときは、スケルチ回路が閉じている状態です。

(他局が通話しているかいないかの確認ができます。)

⑦ 144 [メインバンド選択ボタン]

ボタンを押すと144MHz帯側の表示部に“MAIN”が表示され、“MAIN”が表示されている144MHz帯で送受信できます。メインバンドの時は赤色になり、サブバンドの時は緑色になります。サブバンドモードの時、照明が点滅します。

⑧ 430 [メインバンド選択ボタン]

ボタンを押すと430MHz帯側の表示部に“MAIN”が表示され、“MAIN”が表示されている430MHz帯で送受信できます。メインバンドの時は赤色になり、サブバンドの時は緑色になります。サブバンドモードの時、照明が点滅します。初期設定(工場出荷時またはリセット時)は、430MHz帯に“MAIN”が表示されます。

注意

144MHz帯で送信すると、430MHz帯の受信に妨害を与えることがあります。

144MHz帯の周波数を3倍した周波数付近には、なるべく設定しないでください。

<例>145.02MHz 帯 (送信周波数)

435.06MHz 帯 (受信周波数)

$145.02 \times 3 = 435.06$

⑨ DOWN [ダウンボタン]

⑩ UP [アップボタン]

- メインバンドの周波数を変えるボタンで、1回押すごとに1MHzずつ周波数が変化します。
- UPボタンを押しつづけると周波数が連続的にアップし、DOWNボタンを押しつづけると周波数が連続的にダウンします。ページング機能及びコードスケルチ機能のコード設定の時にも、コードアドレス番号のアップ、ダウンとして使用します。

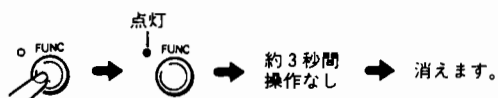
⑪ FUNC [ファンクションボタン]

- ファンクションモードにするボタンで、緑色のLEDが点灯している状態をファンクションモードといいます。FUNCモードは、連続して約3秒間有効入力がないときは、自動的に解除されます。

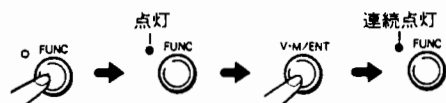
⑫ FUNC LED

FUNCボタンを押して、ファンクションモード(FUNCモード)にした時点灯します。

- ボタン操作を何もしないと約3秒後に、自動的にFUNCモードが解除され、このFUNC LEDが消えます。(リモコンマイクはFUNC 0ボタンです)



- FUNCモードの時V・M/ENTボタンを押すと、周波数ダイレクト入力モードになり、周波数が設定されるまでFUNC LEDは点灯しています。(リモコンマイクはENT DIRECT*ボタンです)



注意

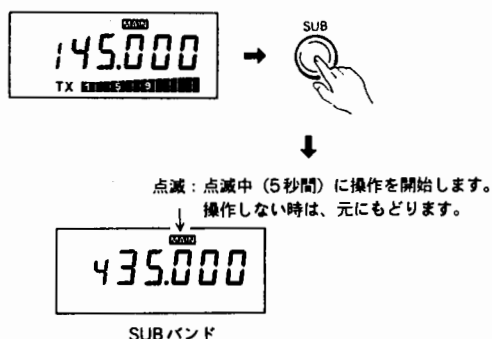
リモコンマイクの表示“FUNC”は、本体のFUNC LEDと同じ動作となります。

⑬ SUB [サブボタン]

SUBバンドとは、MAINが表示されていない方のバンドをいいます。

SUBバンドモードにするボタンで、SUBバンドの周波数等を変えたい時に用います。

- SUBボタンを押すとSUBバンド側の“MAIN”が点滅しますので、SUBバンド側を操作してください。約5秒間有効な入力がないと自動的にSUBバンドモードが解除されます。なお、メインバンドが送信中でも、操作することができます。

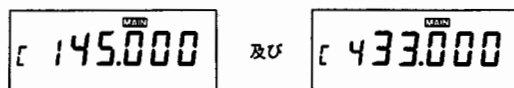


⑭ CALL/MUTE

呼出し周波数(CALLチャンネル)の呼び出し及び、オーディオオートミュート動作を切り換えるボタンです。(144/430MHz帯それぞれに設定できます。)

- 表示部のFUNC LEDが消えている時は、呼出し周波数の呼出しを行います。

144MHz帯は145.00が、430MHz帯は433.00が初期設定されています。

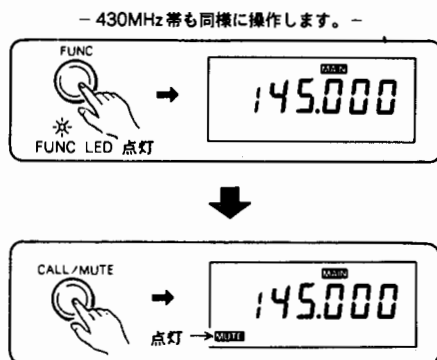


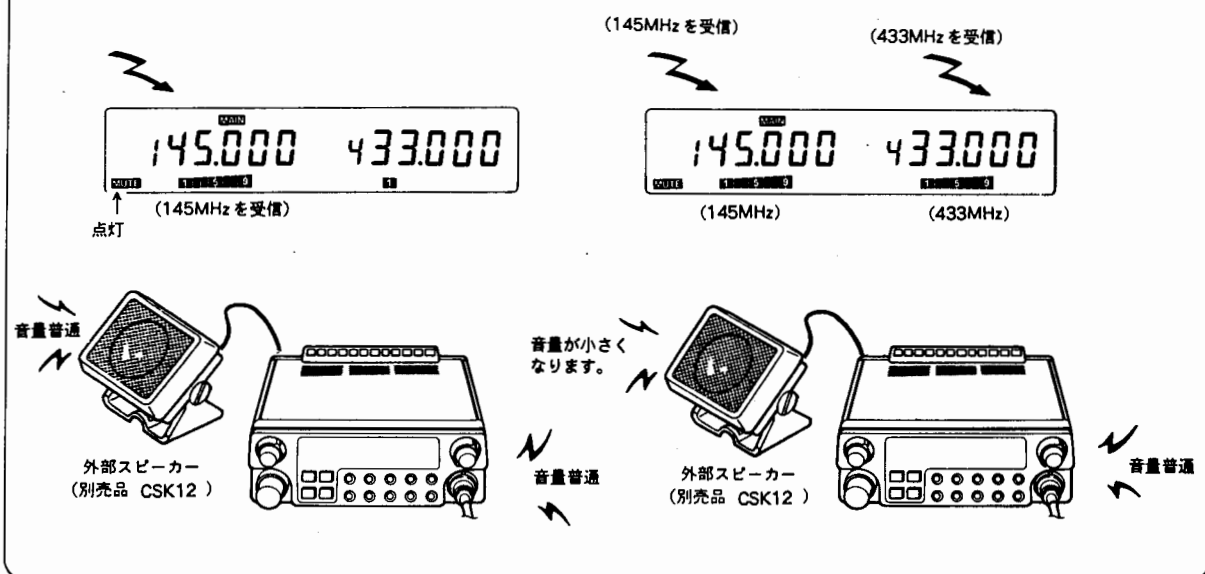
- 呼出し周波数は任意に変えることができますので、クラブチャンネル等としての優先呼出し利用ができます。詳細は、32ページを参照してください。

- FUNC LEDが点灯している時押すと、オーディオオートミュート動作の設定および解除を行ないます。

あまり使用しないバンドの耳ざわりな音を和らげるよう音量を自動的に下げ、よく使用するバンドを聞きやすくする機能です。

- MUTE表示のないバンドに信号が入感したときに、このMUTE表示のあるバンドのスピーカーからの音量を自動的に下げ、MUTE表示のないバンドを聞きやすくする機能が、オーディオオートミュート機能です。





⑮ MS/SCAN

メモリスキャン動作の設定／解除と、通常スキャン動作の設定および解除をするボタンです。

□ 表示部にFUNC LEDが消えている時押すと、メモリスキャン動作の設定およびスキャン動作の解除を行います。

□ 表示部にFUNC LEDが点灯している時は、通常スキャン動作の設定およびスキャン動作の解除を行います。

□ FUNC LEDが消えている時、約0.5秒以上押しつづけると、トーン周波数表示となります。初期値は、88.5Hzです。

□ FUNC LEDが点灯している時に押すと、以下のボタンがロックされます。
(144MHz帯/430MHz帯それぞれに設定できます。)

DOWN, UP, MS, SCAN, CALL,
MUTE, T SQ, RPT, SHIFT, REV,
PO, MAIN DIAL の各ボタン

⑯ TSQ/KL

トーンエンコード、トーンスケルチ運用の設定／解除およびトーン周波数の呼出しと本体のキーロックをするボタンです。

□ FUNC LEDが消えている時押すと、トーンエンコード、トーンスケルチ運用の設定および解除を行います。

ボタンを押すとトーンエンコードモードとなり表示部にTが点灯、もう1度押すとトーンスケルチ運用モードとなり表示部にTSQが点灯、更に1度押すと通常運用モードになります。

注意

1. 別売品のCTN5600が実装されていない時は、トーンスケルチ運用になりません。別売品のトーンスケルチユニットCTN5600を実装してください。(144MHz帯、430MHz帯各々独立してトーンスケルチ運用できます)

2. 同一トーン周波数局同士の交信はできますが、異なったトーン周波数の局との交信または、トーン運用できない無線機との交信はできません。

3. トーンスケルチ運用のときは、あらかじめトーン周波数を相互に設定しておいてください。
4. トーンスケルチ運用をおえたら、トーンスケルチ運用を解除しておいてください。
トーンスケルチ運用のままになっていると、通常運用をしている他局の交信内容を聞くことができません。
5. 本体のKLボタンと、リモコンマイクのキーロックスイッチは、それぞれ独立しており連動はしていません。
6. SETモードの6によりKLモード時のメインダイヤルツマミが、有効となります。
55ページ 6. SETモードの項を参照してください。

⑪ PG-C/DT

PAG (ページング) モード、CSQ (コードスケルチ) モードおよび、通常運用モードの切り換えと、PAG、CSQのコード(PG-Cコード)の呼出し、DTMFモードの設定および解除DTMFコードの呼出しを行うボタンです。

- FUNC LEDが消えている時押すと、ページング運用、コードスケルチ運用の設定および解除を行います。

ボタンを押すとページングモードとなり表示部にPAGが点灯、もう1度押すとコードスケルチモードとなり表示部にCSQが点灯します。更にもう1度押すと表示部のCSQが消えボタンを押す前の状態(通常運用)になります。

約0.5秒押し続けるとページング用コードが呼び出されます。

- FUNC LEDが点灯している時押すと、DTMFモードの設定および解除を行います。FUNC LEDが点灯している時に約0.5秒押し続けるとDTMFコードが呼び出されます。

注意

1. 別売品のDTMFユニットCTD5600が実装されていない時は、ページング運用、コードスケルチ運用、DTMF運用になりません。

CTD5600を実装すると、144MHz帯および430MHz帯 各々独立してページング運用、コードスケルチ運用ができます。

2. ページング運用、コードスケルチ運用の時は、同じコードの局との交信はできますが、異なったコードの局との交信または、ページング機能、コードスケルチ機能のない無線機との交信はできません。

⑫ RPT/SHIFT

レピータ動作の設定および解除とシフト方向の設定/解除およびシフト周波数の呼出しを行うボタンです。

- FUNC LEDが消えている時押すと、レピータ動作の設定および解除を行います。

ボタンを押すとレピータモードとなり、表示部にTおよび-が点灯、もう1度押すと、シフト方向が変わりTおよび+が点灯、更に1度押すとボタンを押す前(通常運用モード)の状態になります。

- FUNC LEDが点灯している時は、シフト方向の設定/解除を行います。

ボタンを押すとマイナスシフトとなり表示部に-が点灯、もう1度押すとシフト方向が変わり、プラスシフトとなり表示部に+が点灯、更に1度押すとボタンを押す前(通常運用モード)の状態になります。

- FUNC LEDが点灯している時に、約0.5秒以上押しつづけると、レピーター運用時のシフト周波数表示となります。(初期値は、VHF: 0.6MHz、UHF: 5 MHzです。)

⑬ V・M/ENT

VFO周波数表示モードとメモリー周波数表示モードの切り換えと、メモリー周波数、呼び出し周波数およびコードの書き換えをするボタンです。

- FUNC LEDが消えている時押すと、メモリー周波数の呼出し状態となり、もう1度押すとボタンを押す前の状態に戻ります。

- FUNC LEDが点灯している時押すと、メモリー周波数、呼び出し周波数の書き換えモードとなり、もう1度押すと、その内容が登録されます。

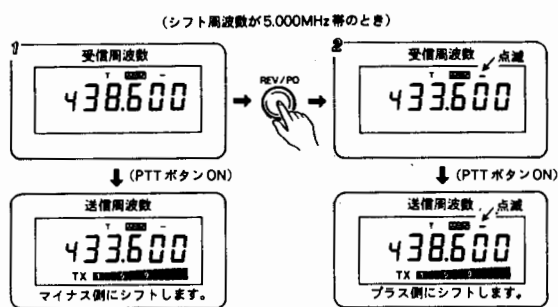
②⑩ REV/PO

レピータ運用時における送信周波数と受信周波数を逆にする機能と送信出力を切り換える機能ボタンです。

- FUNC LEDが消えている時押すと、レピータ運用時における送信周波数と受信周波数が逆(リバース状態といいます。)になりシフト方向を示す+又は-の表示が点滅します。

注意

リバース状態で周波数を変更すると、リバース状態が解除されます。



- FUNC LEDが点灯している時押すと、送信出力の切り換えを行います。

1 回押すと表示部にMが点灯し、Mid Powerになり、再度押すとLが点灯し、Low Powerとなり、もう1回押すことによりLが消灯し、元のHi Powerとなります。

注意

1. 初期状態で送信出力は、Hi Powerとなっています。Hi Power時には、表示部のLおよびMが点灯しています。

2. 430MHz帯も同様に操作します。

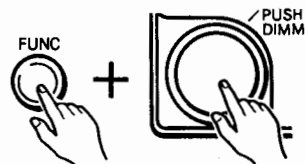
②⑪ CLR/STEP

各種モードからVFO周波数表示モードに戻すクリア機能とチューニングステップ表示を呼び出すボタンです。

- FUNC LEDが消えている時押すと、各種モードから前の周波数表示モードにもどります。また、呼び出し周波数表示モード及びメモリー周波数表示モード時には、呼び出し周波数及びメモリー周波数が、そのままVFO周波数表示モードにシフトします。
- FUNC LEDが点灯している時押すと、チューニングステップの表示となり、メインダイヤルで変えることができます。チューニングステップは、5kHz, 10kHz, 12.5kHz, 20kHz, 25kHz, 50kHzの6種類あり、144MHz帯、430MHz帯個々に設定できます。
- チューニングステップの切り換えは、CLR/STEP(ステップ)ボタンで行います。変化する周波数(チューニングステップ)は、5kHz, 10kHz, 12.5kHz, 20kHz, 25kHz, 50kHzのいずれかになります。

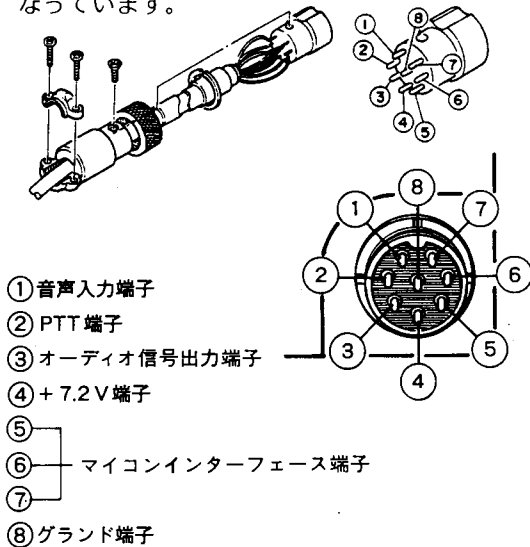
②⑫ /PUSH DIMM

大型LCDの照明の明るさを2段階に切り換えることができます。FUNCボタンを押したままメインダイヤルツマミを押すと暗くなり、もう1度同じ操作をすると元の明るさに戻ります。



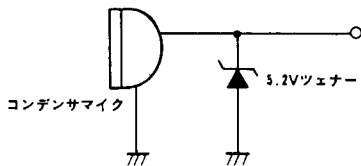
②③ マイクロホン接続端子

付属のマイクロホンを接続する端子です。
マイクロホン接続端子の結線は下図のようになっています。



注意

- ⑤, ⑥, ⑦番端子は、本体マイコンの入力及び出力端子となっていますので付属のマイクロホンCMP839以外のマイクロホンを使用する場合は、⑤, ⑥, ⑦番端子には何も接続しないで下さい。
- CMP839 以外のマイクを使用する場合には、マイクのインピーダンスが $1.5k\Omega \sim 2.5k\Omega$ 程度のエレクトレットコンデンサマイクをご使用下さい。
又、過電圧入力防止の為5.2Vツェナーを必ず入れて下さい。



- リモコンマイクを本体に接続する時は、必ず本体の電源を切ってから行ってください。
 - パケット通信などに使用するためマイクコネクタ③番より、オーディオ出力を取り出す場合、以下のことにご注意ください。
- 1) マイクコネクタの③番端子には、VHF/UHFのそれぞれ音量調節つまみの位置に応じたレベルのオーディオ信号が一緒に出力されます。

- 2) 外部スピーカー接続時には、本体後面のEXT SPKR端子への外部スピーカーの接続状態により、マイクコネクタ③番端子のオーディオ信号出力が下表のようになります。

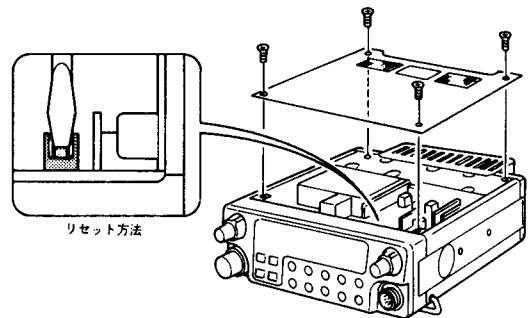
EXT SPKR		マイクコネクタ ③番端子出力
VHF	UHF	
×	×	VHF/UHFともに出力されます。
×	○	同 上
○	×	UHFのみ出力されます。
○	○	同 上

○：接続 ×：接続無

②④ リセット端子

(無線機の内部にあります)

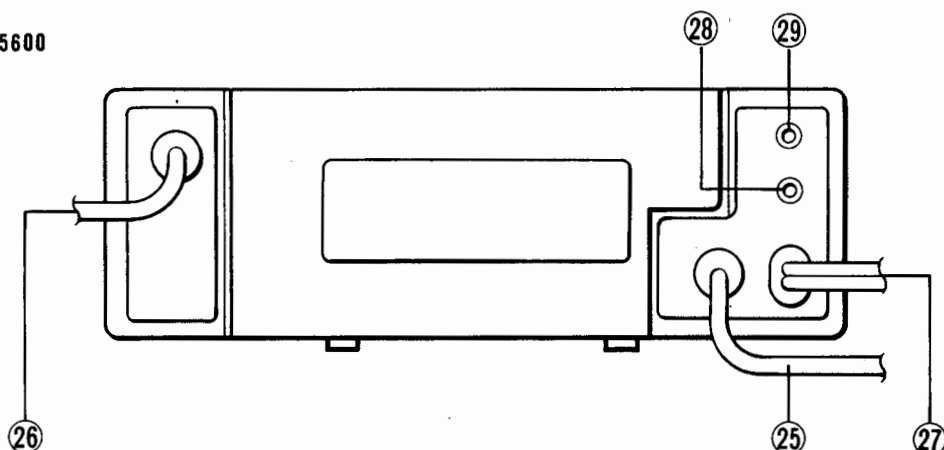
マイコンをハードリセットする機能です。
マイコンバックアップ用リチウム電池を交換したとき、あるいはマイコンが誤動作したとき、無線機の上蓋止めネジ4本を外し、上蓋を外します。
図中に示す部分の白色コネクタ端子を金属性のものでショートさせてください。
大型LCDの表示が一瞬消え、145.000、433.000 が表示されます。



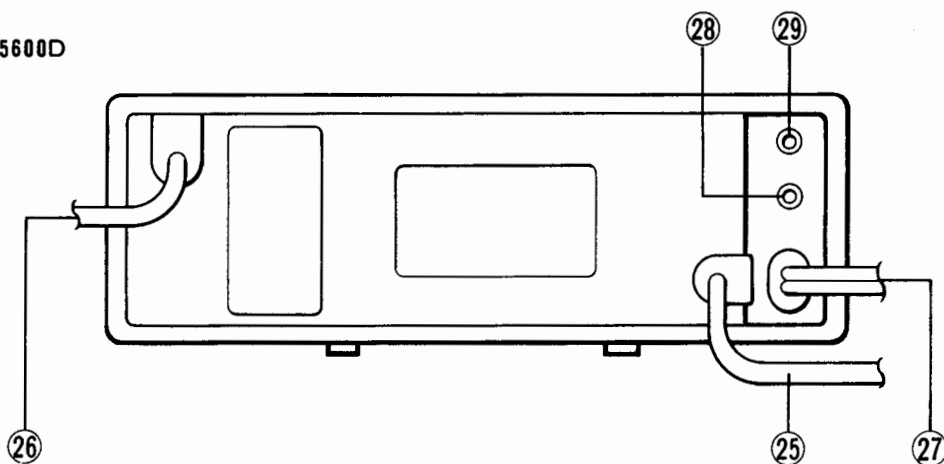
注意

- マイコンをリセットするときは、C5600/C5600Dの電源コードは、電源につないだ状態で行ってください。
- ハードリセットした後、電源コードを電源から一旦切り離すとマイコンが誤動作する場合には、リチウム電池を交換してください。
- マイコンをリセットするとき以外には絶対触れないでください。故障の原因になります。

MODEL C5600



MODEL C5600D



②⑤ 430MHz帯ANT

[430MHz帯用同軸ケーブル]

アンテナからの同軸ケーブルを接続するM型コネクター付同軸ケーブルです。アンテナからの同軸ケーブルは、必ず50Ωのものをご使用ください。

②⑥ 144MHz帯ANT

[144MHz帯用同軸ケーブル]

アンテナからの同軸ケーブルを接続するM型コネクター付同軸ケーブルです。アンテナからの同軸ケーブルは、必ず50Ωのものをご使用ください。

②⑦ DC13.8V [電源コード]

直流13.8Vを加えるギボシ端子付電源コードです。

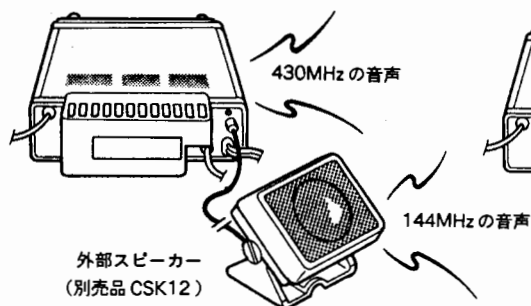
付属の接属コード2.0mを使用して、無線機に電源が供給できるように配線してください。

注意

1. 本機は、12V仕様車用です。
トラックなど24V使用車で使用される場合は、24Vを12Vに変換するDC-DCコンバータをご利用ください。
2. ヒューズを変換する場合はかならず、C5600は5Aのヒューズ、C5600Dは12Aのヒューズを使用してください。
指定以外のヒューズは、絶対使用しないでください。

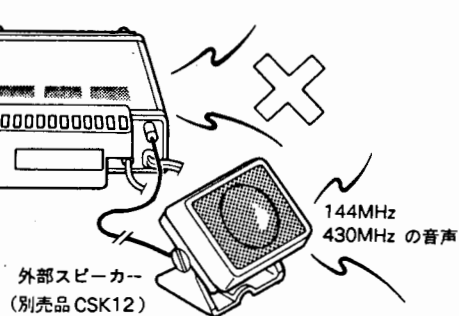
②⑧ 144MHz帯／EXT SPKR
[144MHz帯スピーカー端子]

外部スピーカーを接続する端子です。外部スピーカーを接続すると、接続した外部スピーカーは144MHz帯として働き、本体の内蔵スピーカーは430MHz帯として働きます。



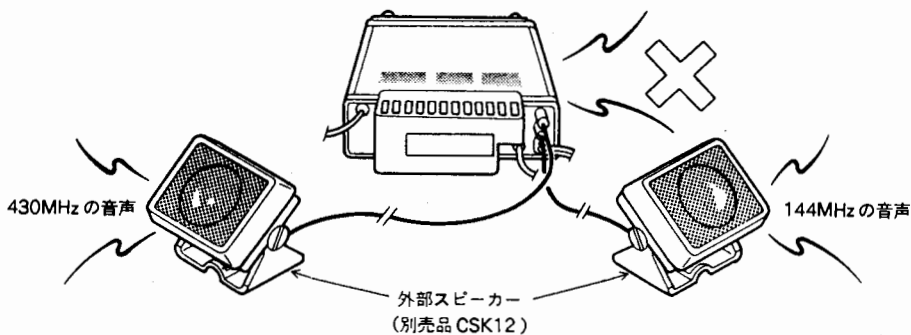
②⑨ 430MHz帯／EXT SPKR
[430MHz帯スピーカー端子]

外部スピーカーを接続する端子です。外部スピーカーを接続すると接続した外部スピーカーは144MHz帯と430MHz帯用として働き、本体の内蔵スピーカーは働きません。



アドバイス

144MHzおよび430MHz帯共外部スピーカーを接続すると、接続されたスピーカーは、それぞれの働きをし、このとき本体の内蔵スピーカーは働きません。



リモコンマイク

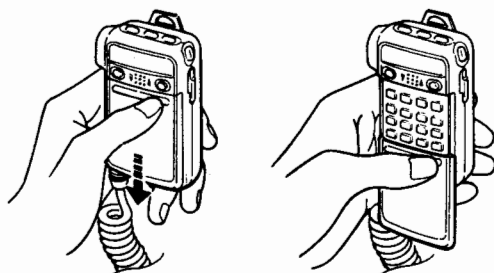
○ リモコンマイクフタスライド方法

リモコンマイクのフタはスライド構造となっています。ボタン操作時は、以下に示す方法でフタを開けてご使用下さい。なおボタン操作が終わりましたらその都度フタを閉めて、ご使用ください。

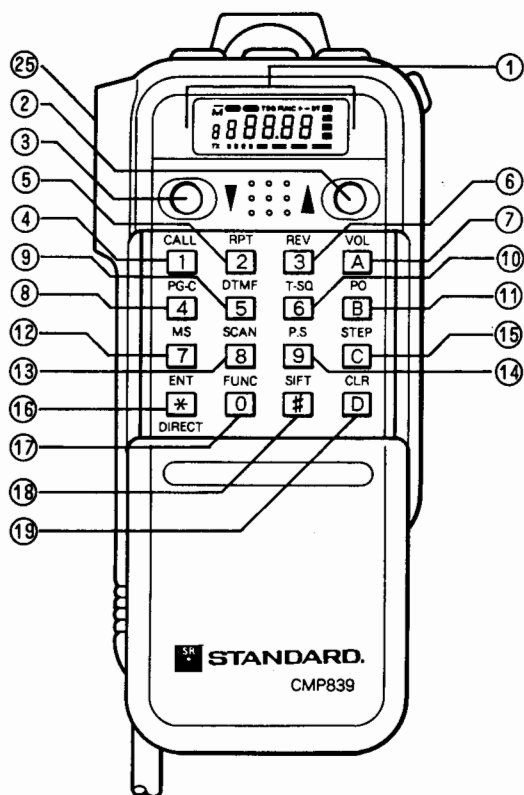
注意

スライドの際フタを強く押してスライドさせないで下さい。リモコンマイク本体の表示プレートに、傷がつく恐れがあります。

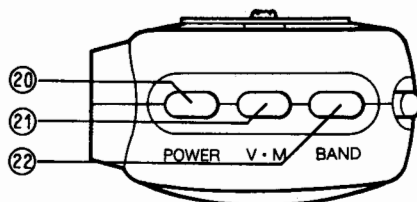
- 親指でフタを軽く押さえ矢印方向にスライドさせます。
- フタが止まる部分までスライドさせます。さらにスライドさせることによりフタを取ることも出来ます。なおフタを取った状態での使用も可能です。



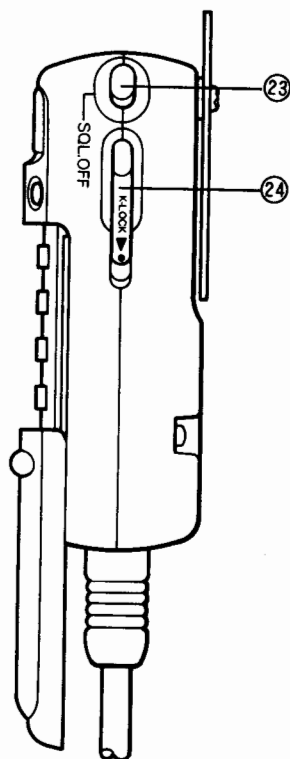
前面



上面

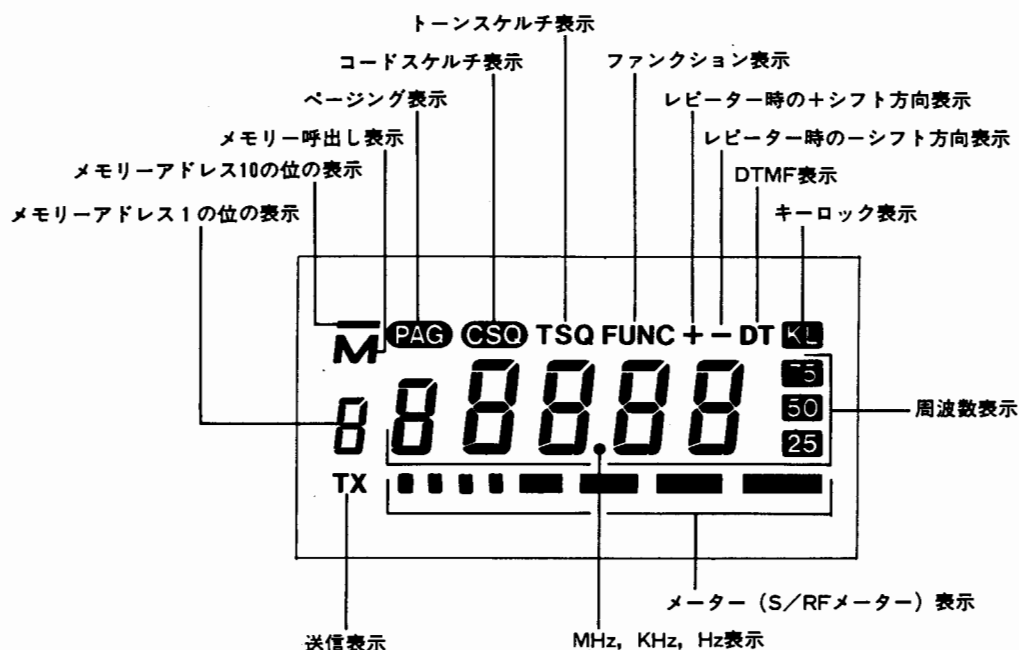


側面



① 表示部

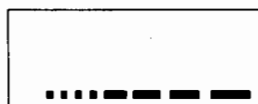
表示部には、LCDを採用し、リモコンマイクの操作が容易に確認できます。リモコンマイクの表示部は本体メインバンドのみを表示します。



■S/RFメーターの表示について

(動作は本体表示17ページを参照して下さい。)

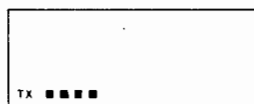
Sメーター表示



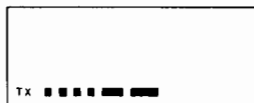
BUSY表示



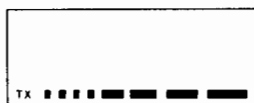
RFメーター表示



Low Power時



Mid Power時



Hi Power時

② ▲ [アップボタン]

③ ▼ [ダウンボタン]

周波数の変更、メモリアドレスの変更、コードアドレスの変更、ページング及びコードスケルチのコードの変更、スキャン方向変更および音量調節に使用します。

④ CALL 1

呼出し周波数の呼出しと、数字1の入力およびDTMF信号1を送出するボタンです。

- 直接押すと、呼出し周波数が表示されます。
- ダイレクト入力時に押すと、数字1が入力されます。
- PTTボタンを押しながら押すと、DTMF信号1が送出されます。

⑤ RPT 2

レピーター動作の設定／解除と数字2の入力およびDTMF信号2を送出するボタンです。

- 直接押すとレピーターモードとなり、表示部にTおよび+が点灯、もう1度押すとシフト方向が変わりTおよび+が点灯、更に1度押すと通常運用モードになります。
- 周波数設定モード時に押すと、数字2が入力されます。
- PTTボタンを押しながら押すと、DTMF信号2が送出されます。

⑥ REV 3

レピーター運用時における送信周波数と受信周波数を逆にする機能と、数字3の入力とDTMF信号3を送出するボタンです。

- レピーター運用時に直接押すと、送信周波数と受信周波数が逆（リバーサ状態といいます。）になり、シフト方向を示す+又は-の表示が点滅します。
- 周波数設定モード時に押すと、数字3が入力されます。
- PTTボタンを押しながら押すと、DTMF信号3が送出されます。

⑦ VOL A

リモコンマイクで、本体の音量を調節するVOLモードにする機能と、DTMF信号Aを送出するボタンです。

- 本体がリモコン音量調節モードのとき直接押すと、リモコンで本体の音量調節ができます。
- PTTボタンを押しながら押すと、DTMF信号Aが送出されます。

⑧ PG-C 4

PAG（ページング）モード、CSQ（コードスケルチ）モードと通常運用モードの切り換えと、数字4の入力およびDTMF信号4を送出するキーです。

- 直接押すとページングモードとなり、表示部にPAGが点灯、もう1度押すとコードスケルチモードとなり、表示部にCSQが点灯、更に1度押すと通常運用になります。
- 直接約0.5秒押しつづけるとページング用コードが呼出されます。
- 周波数設定モード時に押すと、数字4が入力されます。
- PTTボタンを押しながら押すと、DTMF信号4が送出されます。

注意

1. 別売品のCTD5600が実装されていない時は、ページング運用、コードスケルチ運用になりません。

CTD5600を実装すると144MHz帯／430MHz帯各々独立して、ページング運用、コードスケルチ運用ができます。

2. ページング運用、コードスケルチ運用の時は、同じコードの局と交信はできますが、異なったコードの局との交信またはページング運用、コードスケルチ運用できない無線機との交信はできません。

⑨ DTMF 5

DTMFモードの設定／解除とDTMFコードの設定と数字5の入力およびDTMF信号5を送出するボタンです。

- 直接押すと、DTMFモードが設定されます。
- 直接約0.5秒押しつづけると、DTMFコード表示となります。
- 周波数設定モード時に押すと、数字5が入力されます。
- PTTボタンを押しながら押すと、DTMF信号5が送出されます。
- 周波数設定モード時押すと、数字5が入力されます。

注意

別売り品のDTMFユニットCTD5600が実装されていない時は、DTMF運用になりません。

⑩ T-SQ 6

トーンエンコード・トーンスケルチ運用の設定／解除と、トーン周波数の呼出しおよび数字6の入力とDTMF信号6を送出するキーです。

- 直接押すとトーンエンコードモードとなり、表示部にTが点灯、もう1度押すとトーンスケルチ運用モードとなり、表示部にTSQが点灯、更に1度押すとボタンを押す前の状態になります。
- 直接約0.5秒押しつづけると、トーン周波数表示となります。
- 周波数設定モード時に押すと、数字6が入力されます。
- PTTボタンを押しながら押すと、DTMF信号6が送出されます。

注意

1. 別売品のCTN5600が実装されていない時は、トーンスケルチ運用になりません。別売品のトーンスケルチユニットCTN5600を実装し、T. SQL ボタンを押すと、144MHz帯／430MHz帯各々独立してトーンスケルチ運用ができます。
2. 同じトーン周波数局同士の交信はできますが異なったトーン周波数の局との交信またはトーン運用できない無線機との交信はできません。

⑪ PO B

送信出力の切り換えと、DTMF信号Bを送出するボタンです。

- 直接押すと送信出力の切り換えを行います。
1 回押すと表示部のRFメーター中央部のセグメントが1コ点滅し、Mid Powerモードになり再度押すとRFメーターの左側から3コ目、4コ目のセグメントが点滅しLow Powerモードとなり、もう1回押すことによりRFメーターの右端のセグメント1コが点滅し、元のHi Powerモードとなります。
- PTTボタンを押しながら押すと、DTMF信号Bが送出されます。

⑫ MS 7

メモリスキャン動作の設定／解除と、数字7の入力およびDTMF信号7を送出するボタンです。

- 直接押すと、メモリスキャン動作の設定およびスキャン動作の解除を行います。
- 周波数設定モード時に押すと、数字7が入力されます。
- PTTボタンを押しながら押すと、DTMF信号7が送出されます。

⑬ SCAN 8

スキャン動作の設定／解除と、数字8の入力およびDTMF信号8を送出するボタンです。

- 直接押すと、通常スキャン動作の設定およびスキャン動作の解除を行います。
- 周波数設定モード時に押すと、数字8が入力されます。
- PTTボタンを押しながら押すと、DTMF信号8が送出されます。

⑭ PS 9

プログラムスキャン動作の設定／解除と、数字9の入力およびDTMF信号9を送出するボタンです。

- 直接押すと、プログラムスキャン動作の設定およびスキャン動作の解除を行います。
- 周波数設定モード時に押すと、数字9が入力されます。
- PTTボタンを押しながら押すと、DTMF信号9が送出されます。

⑮ STEP C

チューニングステップ表示の呼出しと、DTMF信号Cを送出するボタンです。

- 直接押すと、チューニングステップ表示を呼出します。
- PTTボタンを押しながら押すと、DTMF信号Cが送出されます。

⑯ ENT DIRECT *

周波数設定モード(ダイレクト入力モード)の設定と、メモリー周波数および呼び出し周波数の各モード登録とDTMF信号*を送出するボタンです。

- 直接押すと周波数設定モードとなり、数字ボタンで直接周波数およびコードを入力できます。
- メモリー周波数および呼び出し周波数の各モード登録を行います。
40ページ、メモリー周波数に機能を書き込む方法を参照してください。
- PTTボタンを押しながら押すと、DTMF信号*が送出されます。

⑰ FUNC 0

FUNCモードの設定／解除と、数字0の入力およびDTMF信号0を送出するボタンです。FUNCモードの時は、表示部にFUNCが表示されます。

- 直接押すと、FUNCモードの設定／解除となります。また、直接押しながらENT DIRECT*ボタンを押すと、SETモード動作となります。
- 周波数設定モード時に押すと、数字0が入力されます。
- PTTボタンを押しながら押すと、DTMF信号0が送出されます。

⑱ SIFT

シフト方向の設定／解除と、シフト周波数の呼出しおよびDTMF信号#を送出するボタンです。

- 直接押すとシフト方向の設定／解除を行います。
ボタンを押すとマイナスシフトとなり表示部に-が点灯、もう1度押すとシフト方向が変わりプラスシフトとなり表示部に+が点灯、更に1度押すとボタンを押す前の状態になります。
- 直接約0.5秒押しつづけると、シフト周波数表示となります。
- PTTボタンを押しながら押すと、DTMF信号#が送出されます。

⑲ CLR D

各種モードからVFO周波数表示モードに戻るクリアー機能とDTMF信号Dを送出するボタンです。

- 直接押すと各種モードから前の周波数表示モードに戻ります。また、呼出し周波数表示モードおよびメモリー周波数表示モード時には、呼び出し周波数及びメモリー周波数がそのまま、VFO周波数表示モードにシフトします。
- PTTボタンを押しながら押すと、DTMF信号Dが送出されます。

⑳ POWER [電源スイッチ]

本体およびリモコンマイクを電源ON/OFFします。
リモコンマイクのみでのソフトリセットはできません。

㉑ V・M [VFO ↔ MR]

VFO周波数表示モードとメモリー周波数表示モードの切り換えを行います。

㉒ BAND [バンド切換え]

MAINバンドとSUBバンドを切り換えます。

②③ SQL. OFF [スケルチ オフ]

このボタンを押している間スピーカーより音がします。弱い信号を受信するとき便利な機能です。

②④ K. LOCK [キーロック]

リモコンマイクの以下のボタン操作を無効にします。

CALL, RPT, REV, PG-C DTMF, T-SQ, PO, MS, SCAN, PS, STEP, ENT, SIFT, CLR, V·M, BAND

②⑤ PTT [送信ボタン]

このボタンを押すとメインバンドが送信状態になります。

操作方法

1. SQL調節について

SQL調節は、本体のみの操作です。

手順

- ① 時計方向にゆっくり回し“ザー”というノイズが聞こえなくなる所で止めてください。

注意

SQLツマミを時計方向(↻)に回しすぎないでください。弱い信号が受信できなくなります。

2. 周波数設定について

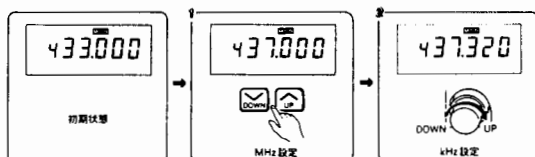
リモコンマイクの数字ボタンを押して、希望の周波数に合わせる方法とメインダイヤルツマミ及びUP/DOWNボタンで合わせる方法があります。

メインダイヤルツマミ及びUP/DOWNボタンで設定する方法

例 437.320MHzにするとき

手順

- ① 、 ボタンを用いて、MHz帯台の周波数を合わせます。
- ② メインダイヤルツマミを用いて、kHz帯の周波数を合わせます。



数字ボタンを押して、希望の周波数に設定する方法

手順

例) 433.08MHzにするとき(ダイレクト周波数入力)

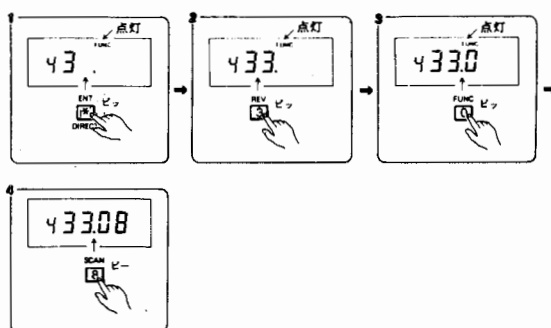
- ① ENT DIRECT* ボタンを押して、ダイレクト入力モードにします。

周波数表示の1部が消えている時の状態をダイレクト入力モードといいます。

但し、SETモードの5の時は、周波数表示が全て消えます。

入力可能な桁が消去されますので、希望の周波数を数字キーにより入力します。

- ②  
- ③  
- ④   ... 入力完了です。



注意

数字キーにて、周波数を設定途中にメインダイヤルツマミを回しますと、設定前の周波数から設定できます。

SUBバンドの周波数設定方法

SUBボタンを押すと、SUBバンドのMAINが点滅を始めます。

MAINバンドの周波数設定と同じ方法で、周波数を設定することができます。

有効な入力がなくなってから、約5秒後にSUBバンドモードが解除されます。

1. 呼出し周波数運用

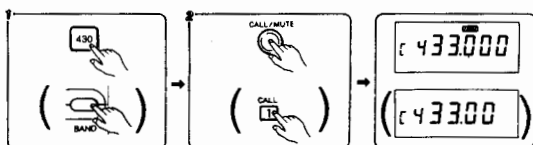
- CALLボタンを押すと呼出し周波数が表示部に表示され、再度押すと、CALLボタンを押す前の周波数表示になります。
- 呼び出し周波数を優先的に呼び出す為のボタンです。
- 呼び出し周波数は初期設定されていますが、書き換えることができます。また、呼び出し周波数にレピーターモードを書き込むことができます。

初期設定 144MHz帯 145.00MHz
 430MHz帯 433.00MHz

手順

- 1 MAINボタンを押して、メインバンドを設定します。
(リモコンマイクは、BANDボタンです。)

- 2 本体のCALL/MUTEボタンを押します。
(リモコンマイクは、CALL 1 ボタンです。)

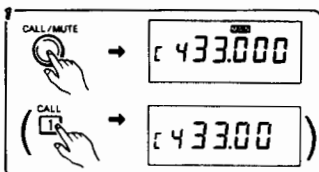


呼び出し周波数の書き換え方法

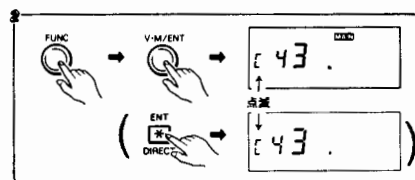
- 1) メインダイヤルツマミ及びUP/DOWNボタンで設定する方法

手順

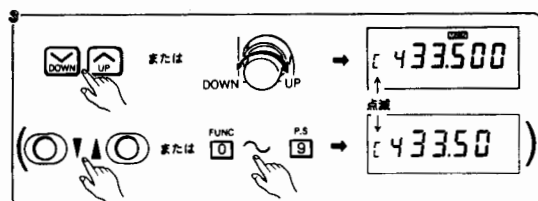
- 1 本体のCALL/MUTEボタンを押します。
(リモコンマイクは、CALL 1 ボタンです。)



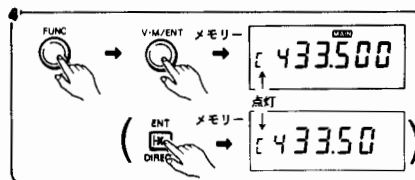
- 2 本体のFUNCボタンを押しFUNCモードとし、V・M/ENTボタンを押します。
(リモコンマイクの場合は、ENT DIRECT * ボタンを押す。)



- 3 本体のUP/DOWNボタン及びメインダイヤルツマミで、希望周波数を合わせます。
(リモコンマイクは、▼▲ボタンです。)



- 4 本体のFUNCボタンを押しFUNCモードとし、V・M/ENTボタンを押します。
Cが点滅から点灯になり、書き換え完了です。
(リモコンマイクは、ENT DIRECT * ボタンです。)



注意

周波数書き換え時に入力可能な桁が消去されているときに、メインダイヤルツマミ及びUP/DOWNボタンを押すと設定前の周波数から変化します。

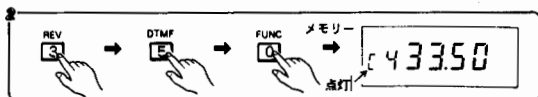
ダイレクト入力で設定する方法

手順

- 1 CALLボタンを押し、ENT DIRECT *ボタンを押します。



- 2 希望周波数を入力します。

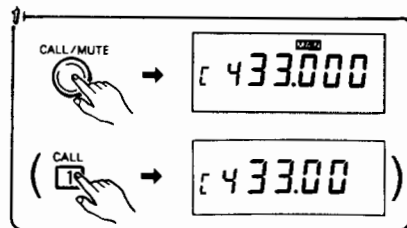


最終桁入力と同時に、呼び出し周波数の書き換えが完了します。

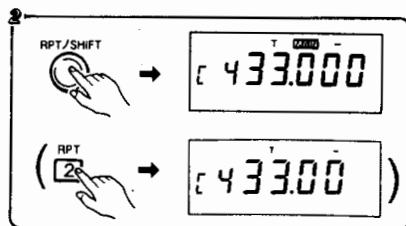
呼出し周波数に各モードを書き込む方法

手順

- 1 CALL/MUTEボタンを押します。
(リモコンマイクは、CALL 1ボタンです。)



- 2 各モード(RPT, PAG, CSQ, TSQ, DTMF)を入力すると、上記事項により呼び出し周波数に各モードが書き込まれます。

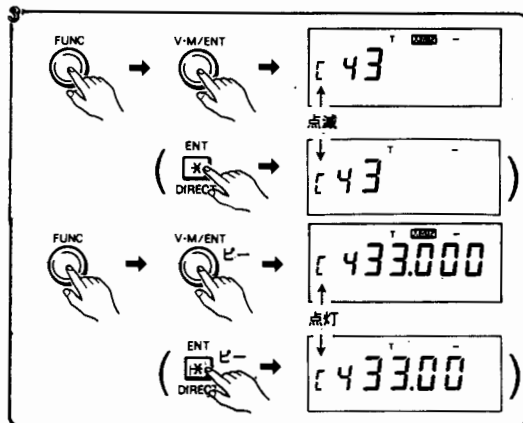


注意

REV(リバース)動作は、メモリーされません。

- 3 FUNCモードの状態、V・M/ENTボタンを2回押します。
(リモコンマイクは、ENT DIRECT *ボタンです。)

レピータモードがメモリーされます。



2. レピーター運用

レピーター運用について

無線交信をレピーター局（無線中継局）を介して行うことをいいます。

レピーター運用はレピーター局が開設されている地域でできますので、レピーター局の送受信周波数を各専門紙などで調べてください。

- レピーター局を介して送信と受信を異なった周波数で交信しますので、送受信周波数をシフトする機能をもった無線機が必要です。

また、レピーター局を駆動するトーンエンコーダが内蔵されていることが必要です。

本機には、レピーター局を駆動する88.5Hz（固定）が組み込まれていますので、レピーター運用がそのままできます。

- レピーター運用はレピーター局を介して交信を行いますので、小電力のトランシーバーで遠くの局と交信が可能になります。

ハイパワーで運用しますと、同じ周波数関係の複数のレピーター局をアクセスしますので、C5600、C5600D共に、L o ポジションでの運用をおすすめします。

本機は、JARLで定められたレピーター運用周波数は全てレピーターモードに設定されていますので、わずらわしいシフト周波数の設定およびレピーターモードの設定が不要です。勿論、レピーターモードを解除することもできます。

アドバイス

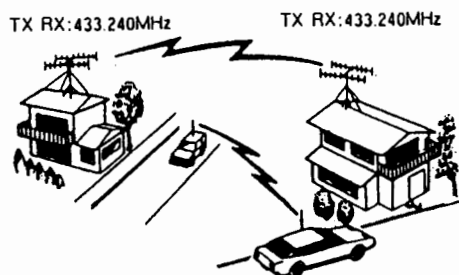
◇メモリー周波数でレピーター運用する時は、各メモリーで設定したトーン周波数になります。

◇VFO周波数でレピーター運用する時は、VFOで設定されトーン周波数になります。

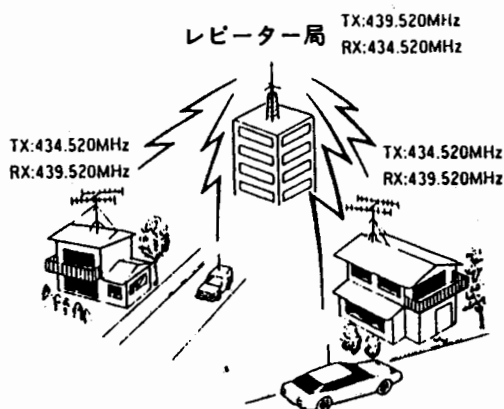
注意

バンドプランのレピーター運用周波数帯でのシンプレックス運用はおやめください。

従来の運用



レピーター運用



1. 周波数を設定して行う方法

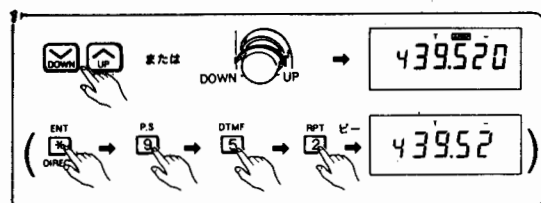
本体またはリモコンマイクにより、使用する周波数を設定します。

JARLバンドプランによるレピーター運用周波数に設定すると、自動的にレピーターモードになり、送信時の5 MHzシフトと88.5Hzのトーンが設定されます。

(Tとーが点灯します。)



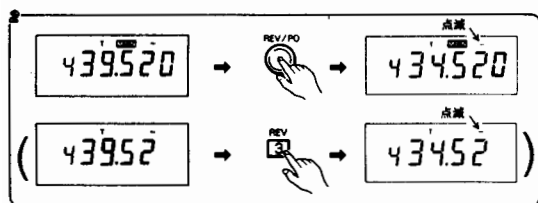
- ① 周波数を表示させます。



- ② リモコンマイクのPTTボタンを押して、交信してください。

アドバイス

◇レピーター運用の時、REVモードにすると受信周波数が入れ代わり、シフト方向を示す、“-”又は“+”が点滅します。



◇レピーター運用の時、本体がFUNCモードの時、RPT/SHIFTボタンを押すか、または、リモコンマイクのSIFT # ボタンを押すと、シフトの方向が逆になります。

2. メモリー周波数を使う方法

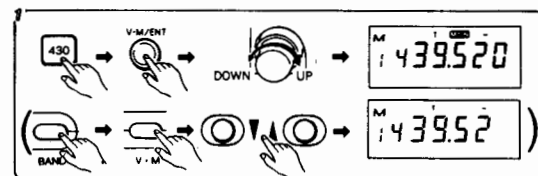


- ① バンドを設定します。

V・M/ENTボタンを押して、メモリー呼び出し状態にして、メモリー周波数を呼び出します。

(リモコンマイクは、V・Mボタンです。)

M 1 に439.52がメモリーされている場合の例



注意

あらかじめ運用周波数をメモリーしておいてください。詳細は、38ページ、周波数を新しくメモリーする手順を参照してください。

- ② リモコンマイクのPTTを押して、交信してください。

注意

シフト周波数がアマチュアバンドを逸脱（オフバンド）すると、表示部にOFFが表示され、送信されません。

OFF

(OFF)

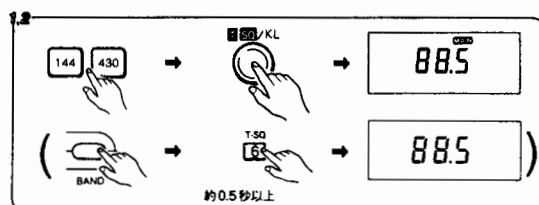
レピータ運用のトーン周波数の設定

■CTN5600実装時のみ

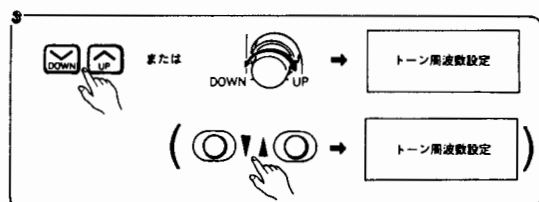
本機には、レピータ運用の時のトーン周波数 88.5Hz がメモリーされていますが、別売りのトーンスケルチユニットCTN5600を実装すると、トーン周波数は任意に変更できます。



- ① バンドを設定します。
- ② T SQ/KL ボタンを約0.5秒押し続けます。
(リモコンマイクは、T-SQ 6 ボタンです。)
表示部がトーン周波数の表示になります。



- ③ メインダイヤルツマミまたは、UP/DOWN でトーン周波数を設定します。
(リモコンマイクは、▼▲ボタンです。)



- ④ T SQ/KLボタンを押すと、ボタンを押す前の周波数表示に戻ります。
(リモコンマイクは、T-SQ 6 ボタンです。)
- ⑤ トーン周波数の書き換え完了です。

アドバイス

- ◇レピーターモードにする必要はありません。
- ◇トーン周波数を変更した場合は、レピーター運用は、変更されたトーン周波数になります。
- ◇UP, DOWNボタンおよび▼▲ボタンを押し続けると、連続的にトーン周波数が変わります。

レピーター運用時のシフト周波数を変える方法

本機には、レピーター運用のシフト周波数 5 MHz がメモリーされていますが、このシフト周波数は任意に変更できます。

初期値は、次の通りです。

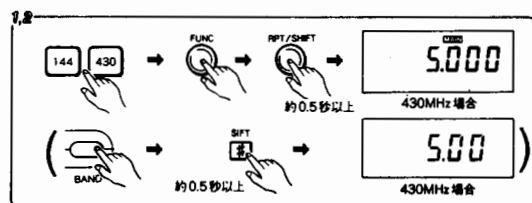
144MHz 帯・・・00.600MHz (600kHz)

430MHz 帯・・・05.000MHz (5MHz)

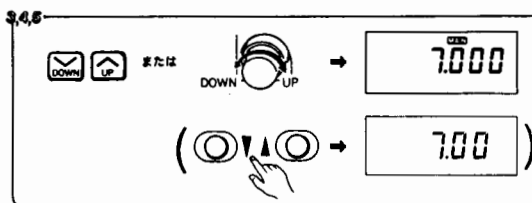
- (1) メインダイヤル又は、UP, DOWNボタンにて設定する方法



- ① バンドを設定します。
- ② FUNCボタンを押しFUNCモードにしてから、RPT/SHIFTボタンを約0.5秒押し続けます。
表示部が、シフト周波数の表示になります。
(リモコンマイクは、SIFT # ボタンです。)



- ③ メインダイヤルツマミまたは、UP/DOWN でシフト周波数を設定します。
(リモコンマイクは、▼▲ボタンです。)



- ④ FUNCモードにてRPT/SHIFT ボタンを押すと、ボタンを押す前の周波数表示に戻ります。
(リモコンマイクは、SIFT # ボタンです。)
- ⑤ シフト周波数の書き換え完了です。

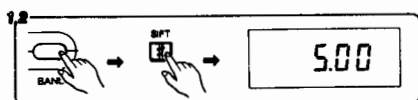
3. メモリー周波数の運用

(2) 数字キーを使用して設定する方法

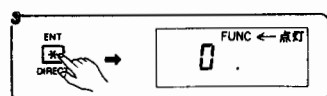
シフト周波数をダイレクト入力する方法
(リモコンマイクのための機能です。)

手順

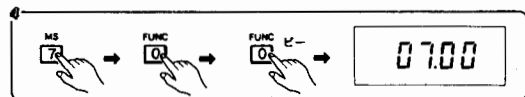
- ① バンドを設定します。
- ② SIFT #ボタンを約0.5秒押し続けます。
表示部が、シフト周波数の表示になります。



- ③ ENT DIRECT * ボタンを押します。
表示の入力可能な桁が消去されます。



- ④ 希望のシフト周波数を数字ボタンにより入力します。



- ⑤ SIFTボタンを押すと、ボタンを押す前の周波数表示に戻ります。

- ⑥ シフト周波数の書き換え完了です。

各バンド各々22CHのメモリー容量を持っていますので、面倒な周波数設定が解消されます。

また、レピーターモード、シフト周波数、トーン周波数、トーンスケルチモード、PAGモード、DTMFモード、CSQモードもメモリーできますので更に利用範囲が広がります。

周波数がメモリーされている場所をメモリーアドレス番号といいM0, M1, M2, ……M9, $\overline{M}0$, $\overline{M}1$, ……M9, MA, Mbの順に並んでいます。Mの上の“—”は、メモリーアドレスの10番台を表します。

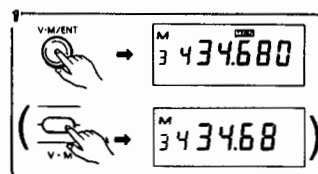
注意

メモリーアドレスAおよびbには専用のトーン周波数および、専用のシフト周波数はメモリーできません。

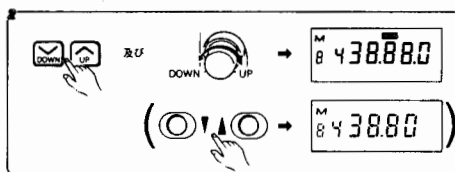
VFO周波数と同じトーン周波数および、シフト周波数となります。

手順

- ① V・M/ENTボタンを押します。
(リモコンマイクは、V・Mボタンです。)
表示部に“M”が点灯し、メモリー周波数呼出し状態になります。



- ② メインダイヤルツマミまたは、アップダウンボタンで希望の周波数（メモリーアドレス）を呼び出します。
(リモコンマイクは、▼▲ボタンです。)



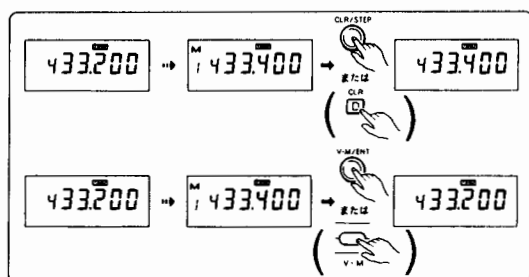
これで完了です。リモコンマイクのPTTボタンを押して交信して下さい。

- ③ 交信終了後、V・M/ENTボタン又は、CLR/STEPボタンを押すと、メモリー呼び出し状態が解除されVFO状態になります。
(リモコンマイクは、V・Mボタン又は、CLR Dボタンです。)

注意

◇本体のCLR/STEPボタンまたは、リモコンマイクのCLR Dボタンを押すと、メモリー呼び出し状態が解除され、メモリー周波数がそのままVFO周波数表示状態になります。

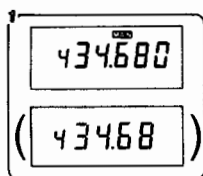
◇本体のV・M/ENTボタンまたは、リモコンマイクのV・Mボタンを押すと、メモリー呼び出し前の周波数の状態になります。



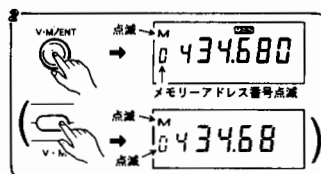
周波数を新しくメモリーする手順

手順

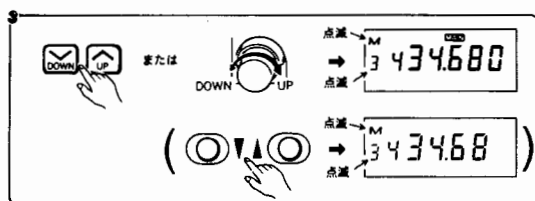
- ① メモリーしたい周波数を表示部に表示します。



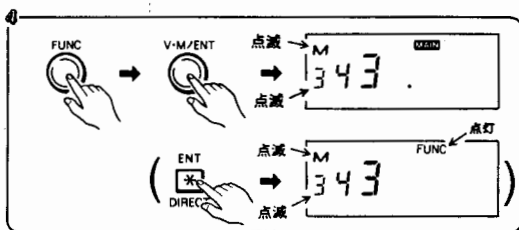
- ② V・M/ENTボタンを押します。
(リモコンマイクは、V・Mボタンです。)
表示部にメモリーアドレス番号Mが点滅します。
(すでにメモリーされる時は、点灯します。)
これを、メモリー周波数呼び出し状態といいます。



- ③ メインダイヤルツマミ又は、UPおよびDOWNボタンで、メモリーアドレスを設定します。
(リモコンマイクは、▲および▼ボタンです。)



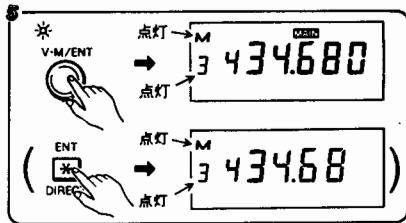
- ④ FUNCボタンを押して、FUNCモードにしてからV・M/ENTボタンを押します。
(リモコンマイクは、ENT DIRECT * ボタンです。)
周波数設定モードとなり、入力可能な桁の表示が消去されます。



- ⑤ FUNCモードにおいて、V・M/ENTボタンを押します。

(リモコンマイクは、ENT DIRECT * ボタンです。)

メモリーアドレス番号 M 及び周波数が点灯し、メモリー周波数書き込み完了です。



アドバイス

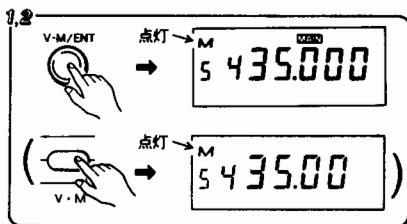
◇メモリー呼び出し状態で、メモリーアドレスが空きの時は、Mは点滅となりVFO周波数が表示されます。

書き込まれているメモリー周波数を変更する方法

手順



- ① V・M/ENTボタンを押します。
(リモコンマイクは、V・Mボタンです。)
- ② 表示部にメモリーアドレス番号Mが点灯し、メモリー周波数呼び出し状態になります。

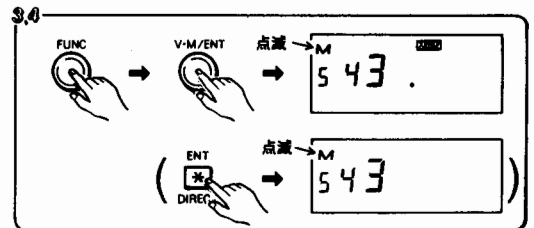


- ③ 変更したいメモリー周波数を表示します。
メインダイヤルツマミ、UP、DOWNボタンです。
(リモコンマイクは、▼▲ボタンです。)

- ④ FUNCボタンを押して、FUNCモードとしてからV・M/ENTボタンを押します。

(リモコンマイクは、ENT DIRECT * ボタンです。)

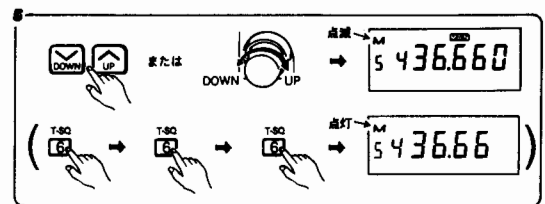
メモリーアドレスのMのみが点滅となり、周波数ダイレクト入力モードとなり、入力可能な桁の表示が消去されます。



- ⑤ メインダイヤルツマミおよび、UP/DOWNボタンにより希望の周波数に合わせます。

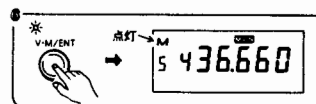
(リモコンマイクは、数字ボタンです。)

リモコンマイクでのダイレクト入力の場合、最終桁の入力で書き込み終了となります。ダイレクト入力モード状態でメインダイヤルツマミおよび、UP/DOWN ボタンの入力があると、消去前の周波数からのアップダウンとなります。



- ⑥ FUNCモードにおいてV・M/ENTボタンを押します。

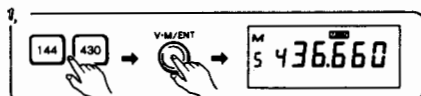
メモリーアドレスのMが点灯となり、書き換えが完了します。



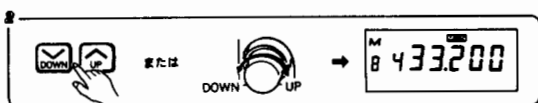
書き込まれているメモリーを消去する方法

手順

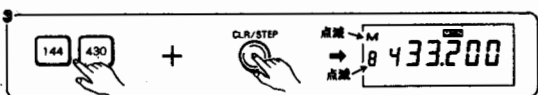
1. V・M/ENTボタンを押します。
メモリー周波数呼出し状態となります。



2. 消去したいメモリーアドレスをメインダイヤルツマミおよび、UP/DOWNボタンにより、呼び出します。



3. 消去したいメモリーアドレスの周波数を含むバンドの 144ボタンまたは、430ボタンを押しながら、CLR/STEPボタンを押します。メモリー周波数が消去され、表示部のMが点滅となり、メモリー周波数が消去されます。



注意

リモコンマイク側では、メモリー周波数を消去することはできません。

メモリー周波数に機能を書き込む方法

メモリー周波数に下記機能の書き込み、解除ができます。

- PRTモードのON/OFF及びシフト周波数、シフト方向、トーン周波数
- TSQモードのON/OFF及びトーン周波数
- PG-CモードのON/OFF
- DTMFモードのON/OFF

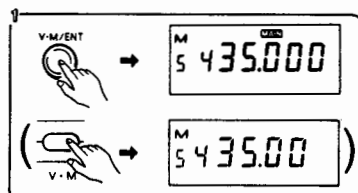
各モードの解除方法は、書き込み方法をもう1度行ってください。

T. SQL機能およびPG-C機能を使用する場合には別売りのCTN5600およびCTD5600が必要です。

(1)メモリー周波数にレピータモードを書き込む方法

手順

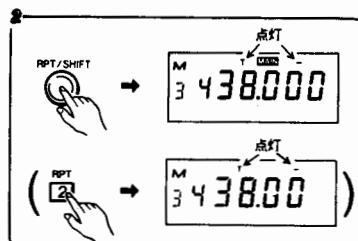
- 1.V・M/ENTボタンを押してメモリー周波数を呼び出します。
(リモコンマイクは、V・Mボタンです)



- 2.RPT/SHIFTボタンを押して、レピータモードにします。

表示部にT-が表示されます。

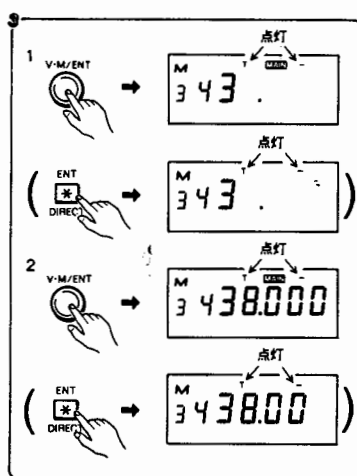
(リモコンマイクは、RPT 2 ボタンです)



- 3.FUNCボタンを押した後、V・M/ENT ボタンを2回押します。

これで書き込み完了です。

(リモコンマイクは、ENT DIRECT* ボタンです)



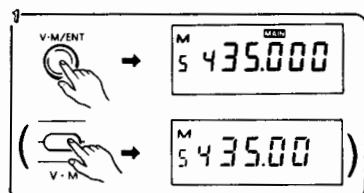
(2)メモリー周波数にトーンスケルチモードを書き込む方法

手順



1.V・M/ENTボタンを押してメモリー周波数を呼び出します。

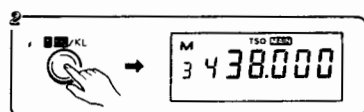
(リモコンマイクは、V・Mボタンです)



2.T SQ /KL ボタンを押して、トーンスケルチモードにします。

表示部にT SQが表示されます。

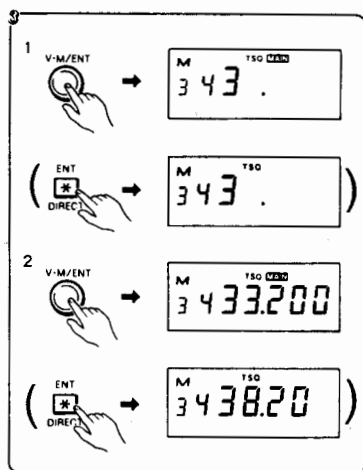
(リモコンマイクはT-SQ 6 ボタンです)



3.FUNCボタンを押した後V・M/ENTボタンを2回押します。

これで書き込み完了です。

(リモコンマイクは、ENT DIRECT* ボタンです)



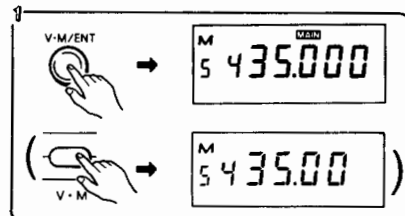
(3)メモリー周波数にページングモードを書き込む方法

手順



1.V・M/ENTボタンを押してメモリー周波数を呼び出します。

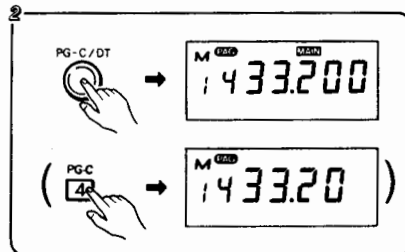
(リモコンマイクはV・Mボタンです)



2.PG-C/DT ボタンを押して、ページングモードにします。

表示部にPAGが表示されます。

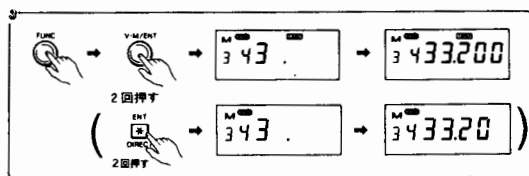
(リモコンマイクは、PG-C 4 ボタンです)



3.FUNCボタンを押した後、V・M/ENTボタンを2回押します。

これで書き込み完了です。

(リモコンマイクは、ENT DIRECT* ボタンです)

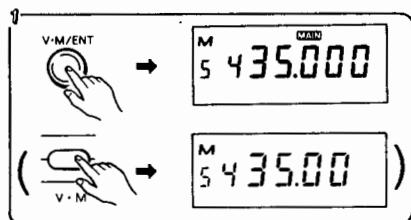


(4)メモリー周波数にDTMFモードを書き込む方法

手順  

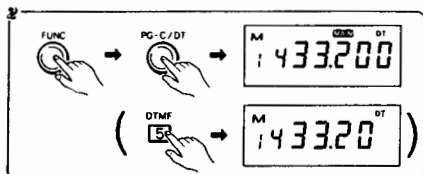
1.V・M/ENTボタンを押してメモリー周波数を呼び出します。

(リモコンマイクは、V・Mボタンです)



2.FUNCボタンを押した後、PG-C/DTボタンを押します。表示部に、DTが表示されます。

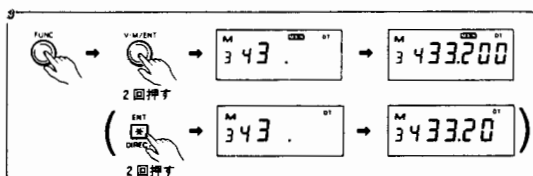
(リモコンマイクは、DTMF 5 ボタンです)



3.FUNCボタンを押した後、V・M/ENTボタンを2回押します。

これで書き込み完了です。

(リモコンマイクは、ENT DIRECT * ボタンです)

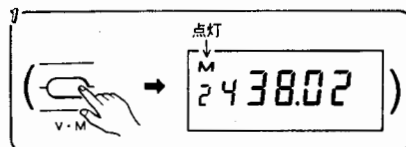


メモリー周波数の専用トーン周波数の書き換え方法

手順  

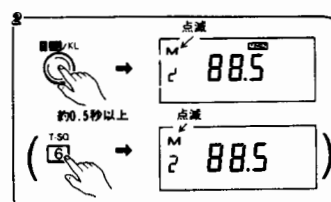
①V・M/ENTボタンを押して周波数を呼び出します。

(リモコンマイクは、V・Mボタンです)



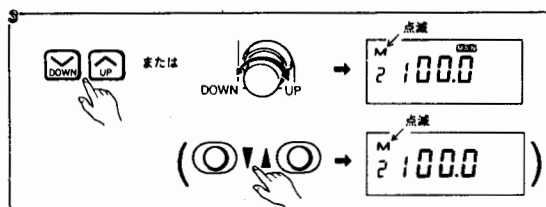
②T SQ/KLボタンを約0.5秒以上押して専用トーン周波数を呼び出します。

(リモコンマイクはT-SQ 6 ボタンです)



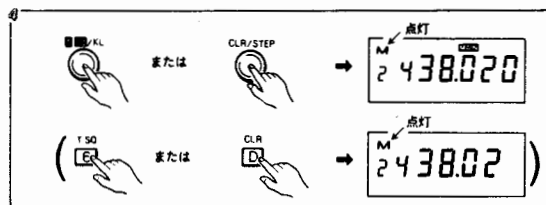
③UP/DOWNボタンまたはメインダイヤルツマミにより、トーン周波数を変更します。

(リモコンマイクは▼▲です)



④T SQ/KLボタンまたはCLR/STEPボタンを押して、元のメモリー周波数表示に戻します。

(リモコンマイクはT-SQ 6 ボタンまたはCLR Dボタンです)



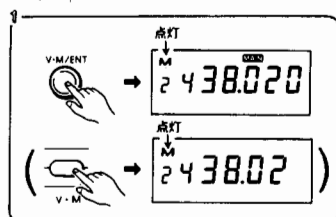
メモリー周波数の専用シフト周波数の書き換え方法

手順



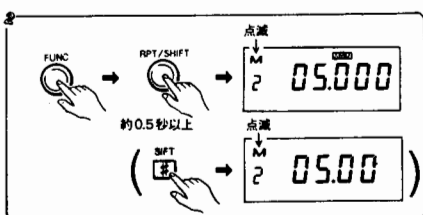
①V・M/ENT ボタンを押してメモリー周波数を呼び出します。

(リモコンマイクはV・Mボタンです)



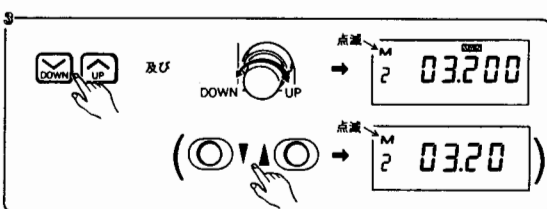
②FUNC ボタンを押してFUNCモードとしRPT/SHIFT ボタンを約0.5秒以上押して専用シフト周波数を呼び出します。

(リモコンマイクはSIFT # ボタンを約0.5秒以上押します)



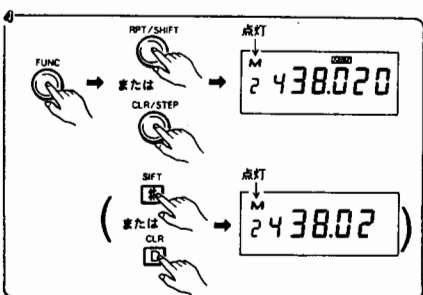
③UP/DOWNボタンおよびメインダイヤルツマミによりシフト周波数を変更します。

(リモコンマイクは▼▲ボタンです)



④FUNC ボタンを押してRPT/SHIFT ボタンまたはCLR/STEP ボタンを押して、元のメモリー周波数表示に戻します。

(リモコンマイクはSIFT # ボタンまたはCLR D ボタンです)

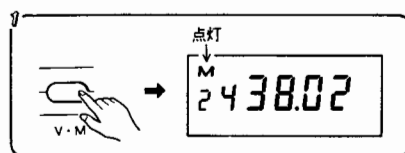


ダイレクト入力の場合

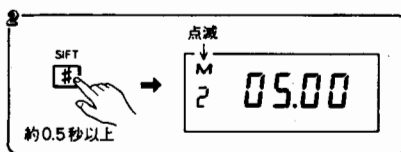
手順



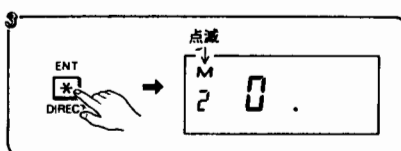
①V・Mボタンを押してメモリー周波数を呼び出します。



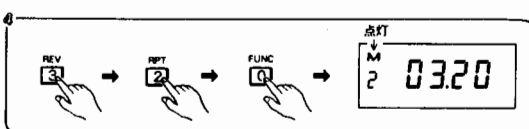
②SIFT # ボタンを約0.5秒以上押して専用シフト周波数を呼び出します。



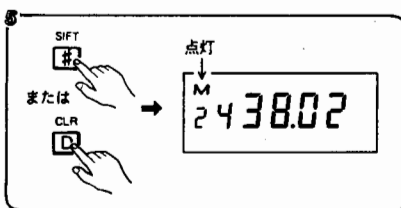
③ENT DIRECT * ボタンを押します。
入力可能な桁の表示が消えます。



④数字ボタンにより希望の周波数を入力します。



⑤SIFT # ボタンまたはCLR D ボタンを押して元のメモリー周波数表示に戻します。



注意

専用シフト周波数は、専用シフト周波数呼び出し状態で表示を替えると同時に表示のシフト周波数が登録されます。

4. トーンスケルチ運用

別売品のトーンスケルチユニットCTN5600を実装してください。

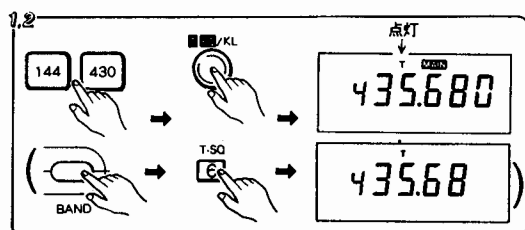
CTN5600が実装されていしないと、トーンスケルチモードにはなりません。

手順

① トーンスケルチ運用するバンドを設定します。

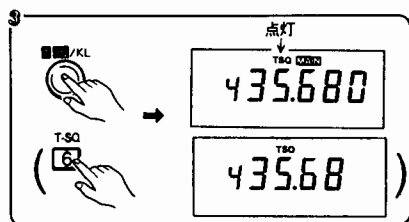
② 本体のT SQ/KLボタンを押します。
(リモコンマイクは、T-SQ 6 ボタンです。)
表示部にTが点灯し、トーンエンコードモードになります。

この状態で送信すると、あらかじめ設定されたトーン周波数が送信されます。(初期値88.5 Hz)



③ もう1度、本体のT SQ/KLボタンを押します。

(リモコンマイクは、T-SQ 6 ボタンです。)
表示部にTSQが点灯し、トーンスケルチ運用モードになります。

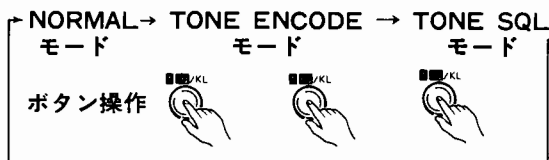


④ PTTボタンを押して交信してください。

アドバイス

◇この状態でトーンスケルチ運用時は、ノイズスケルチ併用ですので、SQLツマミを任意の位置に設定します。

◇トーンスケルチモードは、下記のように設定が変わります。



注意

1. トーンスケルチ運用の時は相手局のトーン周波数と一致しないと受信音が、スピーカーより聞こえません。トーン周波数を送信側および受信側とも一致させてください。
2. トーンスケルチ運用の時は、あらかじめ同じトーン周波数を相互に設定しておいてください。
3. トーンスケルチ運用を終えたら、トーンスケルチ運用を解除しておいてください。
4. トーンスケルチ運用のままになっていると、通常運用をしている他局の交信内容を聞くことができません。

トーン周波数 (Hz) 38種類

67.0	71.9	74.4	77.0	
79.7	82.5	85.4	88.5	初期値
91.5	94.8	97.4	100.0	
103.5	107.2	110.9	114.8	
118.8	123.0	127.3	131.8	
136.5	141.3	146.2	151.4	
156.7	162.2	167.9	173.8	
179.9	186.2	192.8	203.5	
210.7	218.1	225.7	233.6	
241.8	250.3			

5. ページング機能運用

ページング機能およびコードスケルチ機能

この機能は、ある特定の局を呼び出したい時（個別呼出しといいます。）あるいは、特定のグループ全員を一斉に呼び出したい時（グループ呼び出しといいます。）に利用できる大変便利な機能です。

注意

1. ページング機能およびコードスケルチ機能を使って運用する時は、別売りのCTD5600を装着してください。
2. スケルチ調整がされた状態（スピーカーよりザー音がしない状態）で運用してください。
3. ページング運用、コードスケルチ運用の時は、あらかじめコードを相互に設定しておいてください。
4. ページング運用、コードスケルチ運用を終えたら、通常運用モードにしておいてください。ページング運用、コードスケルチ運用のままになっていると、通常運用をしている他局の交信内容を聞くことができません。

1. コードの設定

ページング機能およびコードスケルチ機能を使って運用する時は、個別コード（3桁）とグループコード（3桁）を予め設定（メモリー）してください。

個別コードとグループコードが設定されていない場合は、ページング運用およびコードスケルチ運用ができません。

コードの設定例

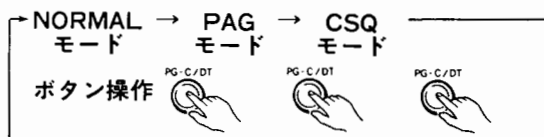
	個別コード	グループコード
A局	111	050
B局	222	

アドバイス

◇個別コードおよびグループコードは3桁より構成されており、3桁は、0から9までのDTMF信号3つから作られています。

このDTMF信号3桁から作られている信号をコードといいます。

◇PAG、CSQモードは下記のように設定が変わります。



注意

ページング運用は、個別コードまたはグループコードが一致しないと交信できませんので、個別コードおよびグループコードは、メンバー員が一致するようにしてください。

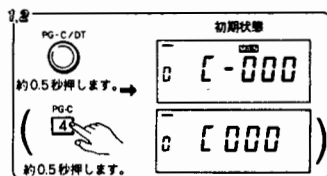
自局個別コードの設定方法

自局コードは、必ずコードアドレス0に設定してください。

手順

- ① 本体のPG-C/DTボタンを約0.5秒押します。（リモコンマイクは、PG-C 4 ボタンを約0.5秒押します。）
- ② 表示部の周波数表示が消え表示部にC-000（初期値）が表示されます。

この状態をコード表示状態といいます。

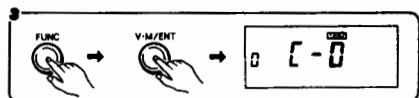


この状態で、メインダイヤルまたは、UP/DOWNボタンにより、0、1、2、Pが順次表示部に表示されます。これをコードアドレス番号といいます。

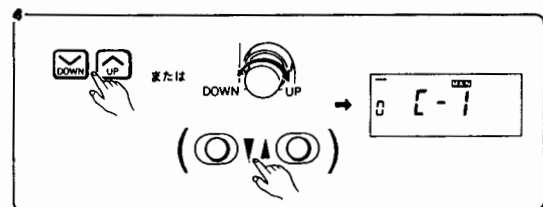
（リモコンマイクは、▼▲ボタンです。）

なお、工場出荷時コードは全て000になっています。

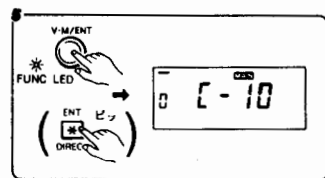
- ③ 本体のFUNCボタンを押して、FUNCモードにしてV・M/ENTボタンを押します。
(リモコンマイクは、ENT DIRECT * ボタンです。)
コード書き換えモードになり、コードの1ケタ目のみが表示されます。



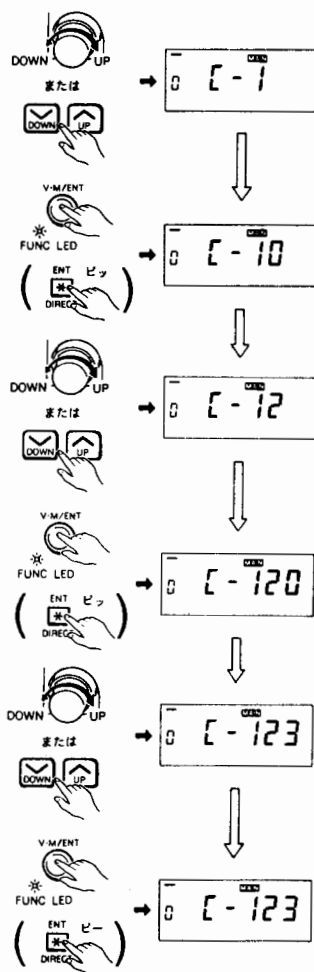
- ④ 本体のメインダイヤルツマミまたは、UP/DOWNボタンによってコードの1ケタ目の入力を行います。
(リモコンマイクは、▼▲ボタンです。)



- ⑤ 本体のFUNCモードにおいて、V・M/ENTボタンを押します。
(リモコンマイクは、ENT DIRECT * ボタンです。)
これで1ケタ目が設定され次に2ケタ目が表示されます。



- ⑥ ③、④、⑤の手順により、3ケタ全部設定が終わると同時に、長いビープ音（ピー）が鳴ります。これで、コードの入力完了です。

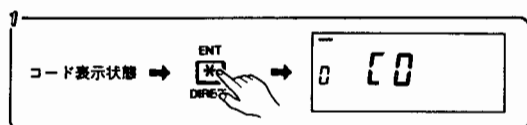


- ⑦ 本体のCLR/STEPボタンによって元の周波数表示に戻ります。
(リモコンマイクは、CLR Dボタン又は、PTTボタンにより元の周波数に戻ります。)

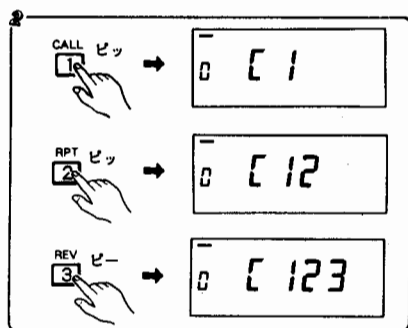
コードをダイレクト入力する方法

手順

- ① コード表示状態で、ENT DIRECT * ボタンを押します。
コード書き換えモードになり、コードの1桁目のみが表示されます。



- ② 3ケタのコードを数字ボタンにより、順次入力します。



- ③ 3ケタ目の数字ボタン入力と同時に、長いビープ音（ピー）が鳴ります。
これで、コードの入力完了です。

グループコードの設定方法

グループコードは、コードアドレス番号1と2に設定して下さい。

設定手順は、自局個別コードと同じです。

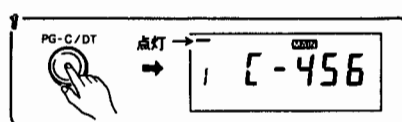
UHF VHFそれぞれ独立して設定が出来ます。(自局個別コードを含む3コード)

グループコードにモニター機能を付加する方法

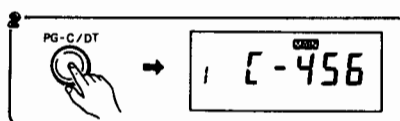
グループコードにモニター機能を付加すると、モニター機能を付加したグループコードと一致したページング信号を受信すると、ページング動作をします。

手順

- ① コード表示状態で本体のPG-C/DTボタンを押します。モニター機能が設定され、コードアドレスの上に“-”が表示されます。
(リモコンマイクは、PG-C 4 ボタンを押します。)



- ② 解除するときには、もう一度、本体のPG-C/DTボタンを押します。
モニター機能が解除され、コードアドレスの上の“-”が消えます。
(リモコンマイクでは、PG-C 4 ボタンです。)



メモリー アドレス 番号	用途	モニター機能	書き換え
0	自局の個別コード (PAGの動作の時、 自動的に送出される コード)	常時モニター	可能です。
1	グループコード	モニター機能の 設定または、解除 が可能です。	可能です。
2			
P	相手局の 個別コード	使用できません。	不可です。

2. ページング運用方法

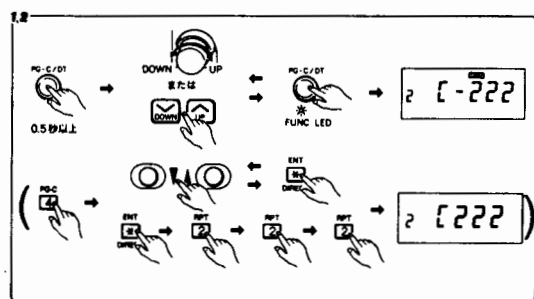
特定の局を呼び出す場合

1. 送信側

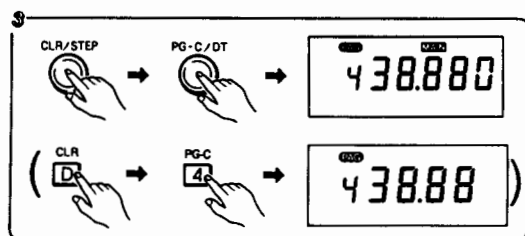
あらかじめ相手局と運用周波数を決めておいてください。

手順

- ① 自局個別コードをコードレス番号0に設定してください。(例として 111)
- ② 本体のPG-C/DTボタンを約0.5秒以上押し
てコードアドレス2を呼び出して相手局の個別コード(例として 222)を設定します。
(リモコンマイクは、PG-C 4 ボタン)

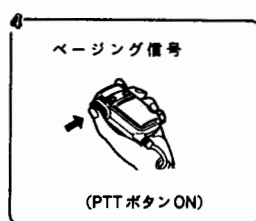


- ③ 本体のCLR/STEPボタンを押して、周波数表示にします。(リモコンマイクは、CLR D ボタンです)
本体のPG-C/DT ボタンを押して、ページングモードにします。(リモコンマイクは、PG-C 4 ボタンです)
表示部にPAGが表示されます。



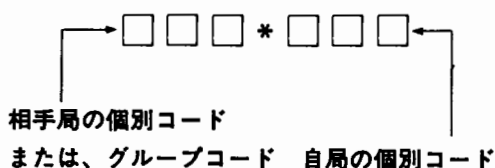
PTTボタンを押してください。

- ④ ページング信号が送出されますので、送出が終わってから交信してください。



アドバイス

- ◇相手局とコネクトした後は、ページングモードを解除して交信してください。
ページングモードのままですと、PTTボタンを押す毎にページングコードが送出されます。
- ◇送出されるページング信号は、設定した相手局のコードと自分のコード(自局コード)が連続して送出されます。
ページングコード送出時、自動的に送出されます。



- ◇送出タイミングは、シンプレックスモードの時は、PTTボタンを押してから約250ms、レピーターモードの時は、PTTボタンを押してから約450ms後、ページングコードが送出されます。

2. 受信側

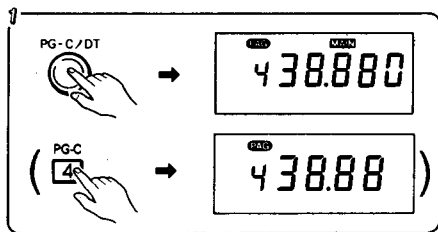
あらかじめ相手局と運用周波数を決めておいてください。

スケルチ調整を正しくすませておいてください。
(スピーカーからザー音がしない状態)

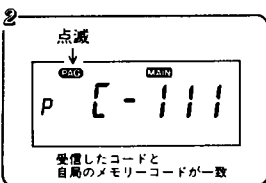
手順



- ① 本体のPG-C/DTボタンを押して、ページングモードにして待受状態にしておきます。
(リモコンマイクは、PG-C 4 ボタンです)
表示部にPAGが表示されます。

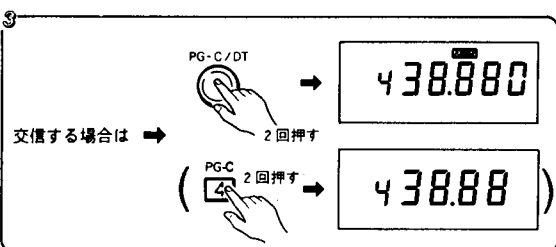


- ② '自局個別コード'を受信すると、ピロロ、ピロロ、ピロロ……と7回ビーブ音がし、表示部右上に表示されているPAGが点滅を開始します。
また、周波数表示部には、周波数表示が消えて相手の個別コードが表示されます。



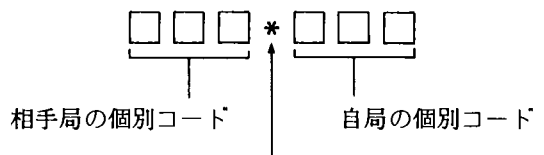
(例) 個別コードで呼び出された時は、PAG PC-111が表示されます。

- ③ 交信する場合は、本体のPG-C/DTを2回押して、ページングモードを解除してから行ってください。
(リモコンマイクは、PG-C 4 ボタンを2回押します。)



アドバイス

- ◇個別コードおよびグループコードが一致した時のブザー音を途中で消すことができます。ブザー音を途中で消すには、PG-C/DTボタンまたはCLR/STEPボタンを押してください。
(リモコンマイクではPG-C 4またはCLR Dボタン)
- ◇コードアドレス1と2(相手局の個別コード設定)に自局個別コードをメモリーして送信状態にした場合は、グループコードが送出されます。
(正しい操作ではありません。)
- ◇混信等で相手側の個別コードが完全に受信されなかった場合は、表示部にはEが表示され、受信する前に表示されていたコードが表示されます。よって、pに表示される相手局の個別コードが表示されませんので、相手局の個別コードは確認できません。
- ◇当社のページング機能がない無線機に、別売りのDTMFマイクを装着すると、C5600/C5600Dをアクセスすることができますので次の順で操作してください。
例 C5200からC5600Dをアクセスする場合
マイクロホンは別売品のCMP 830Dをご使用ください。(但し、C5200ではページング機能がないため、ページング動作はできません。)
- ① C5600/C5600Dをページングモードにしておきます。
- ② C5200の別売マイクCMP 830Dの10キーボタンで相手局の個別コードと自局の個別コードを選出します。(PTTボタンを押しながら押してください。)



必ず送出してください。

数字ボタンを押す間隔は、1.5秒以内に行ってください。

- ③ C5600/C5600D側でページングコードを受信すると、PAGが点滅しますのでページングモードを解除して、交信してください。

運用例

コードアドレスにコードを設定しておきます。

アドバイス

◇ページング動作は、表示部に表示されているコードが送出されます。

A局 コードアドレス内容例

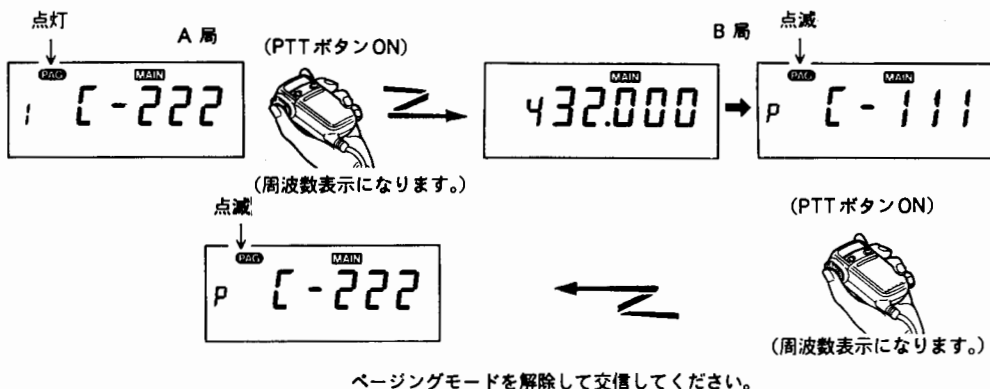
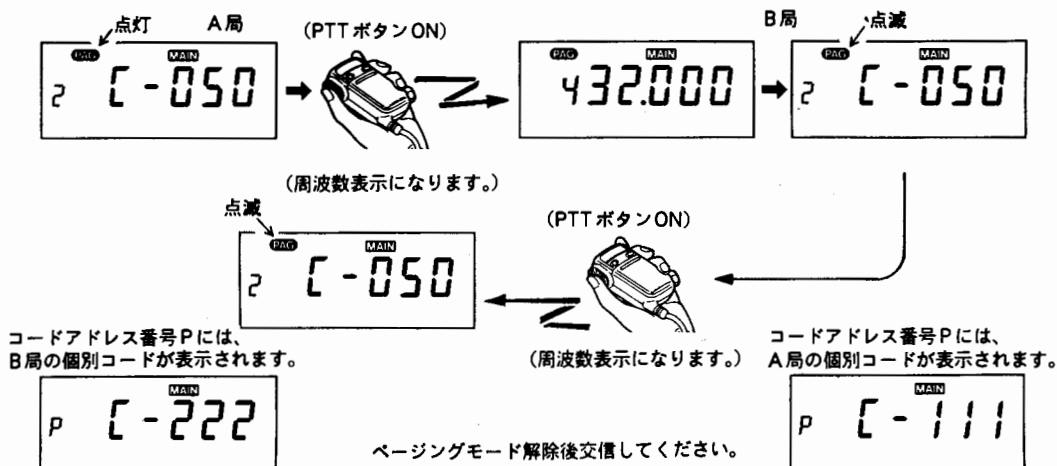
- 0 : 111——自局の個別コード
- 1 : 222——B局の個別コード
- 2 : 050——グループコード

(モニター機能を付加しておきます)

B局 コードアドレス内容

- 0 : 222——自局の個別コード
- 1 : 111——A局の個別コード
- 2 : 050——グループコード

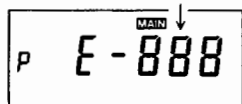
(モニター機能を付加しておきます)



着信エラー

混信等で相手局の個別コードが完全に受信されなかった時の着信エラー表示です。

最後に受信したコードが表示されます。



ページング着信時のビープ音の切り替え

通常は、ピロロ、ピロロ、ピロロと7回のビープ音がしますが、1回だけにすることができます。SETモード55ページを参照してください。

注意

ページング着信して、ピロロ、ピロロ、ピロロのビープ音が鳴っている間にPTTボタンを押しても音は消えません。

3. コードスケルチ運用の方法

コードアドレス番号0から2に設定されたコードでコードスケルチ運用ができます。

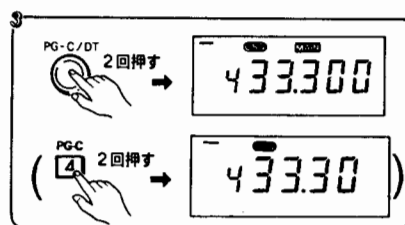
手順



- ① コードスケルチ運用するバンドを設定します。
- ② コードスケルチ運用するコードを表示部に表示します。

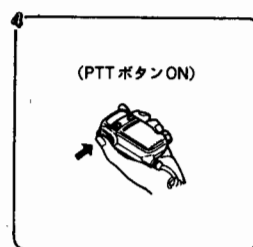
この時、モニター機能を付加しておいてください。

- ③ 本体のPG-C/DT ボタンを2回押して、コードスケルチモードにします。
リモコンマイクは、PG-C 4 ボタンを2回押します。



- ④ 周波数表示に戻し、PTTボタンを押して交信してください。

PTTボタンを押す毎に、DTMF信号が送出されます。



1. スキャン機能

本機はポーズスキャンとビジースキャンがあります。

ポーズスキャンとビジースキャンの切り替えは、SETモード1によって行います。55ページを参照してください。

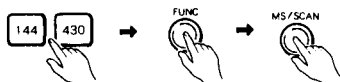
スキャンを行う時は、本体のスケルチを調節し、ザーというノイズが出ないところに設定してください。スキャン中PTTボタンを押すとスキャンが停止して、送信します。

1 MHz帯のスキャン動作

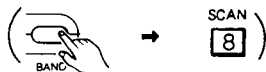
手順  

① スキャン動作させるバンドをMAINバンドにします。

② 本体のFUNCボタンを押して、FUNCモードにして、MS/SCANボタンを押します。
(リモコンマイクは、SCAN 8 ボタンです。)



→ スキャン動作



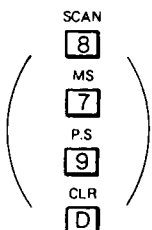
③ 表示されている周波数帯のMHz帯をスキャン動作します。

解除するときは、本体のMS/SCANボタンまたは、CLR/STEPボタンを押します。

(リモコンマイクは、SCAN 8, MS 7, PS 9 ボタンまたは、CLR Dボタンです。)



スキャン動作 →



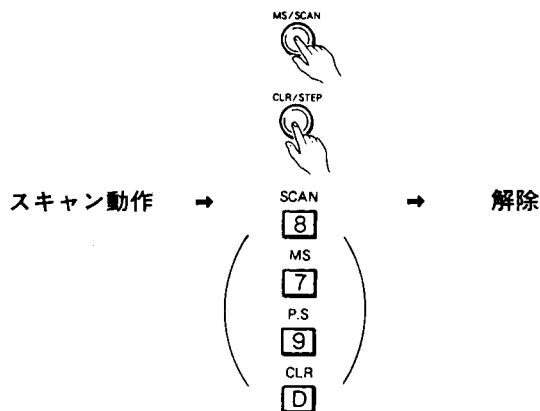
→ 解除

メモリー周波数のスキャン

手順  

① スキャン動作させるバンドをMAINバンドにします。

② 本体のMS/SCANボタンを押します。
(リモコンマイクは、MS 7 ボタンです。)
メモリーされている周波数を順次スキャンします。解除するときは、本体のMS/SCANボタンまたは、CLR/STEPボタンを押します。
(リモコンマイクは、SCAN 8, MS 7, PS 9, CLR Dボタンです。)



アドバイス

◇メモリースキャン動作中に本体のMS/SCANボタンまたはリモコンマイクのMS 7 ボタンを押すと、メモリースキャン動作がメモリー呼出し状態で停止します。再度押すと、再びメモリースキャン動作になります。

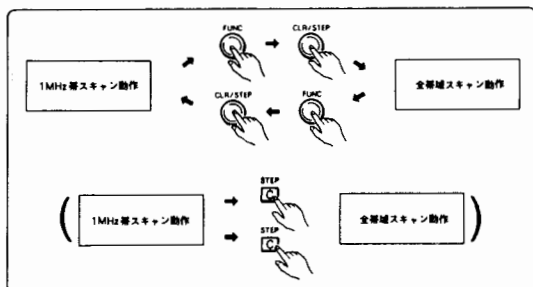
◇メモリー呼出し状態から、メモリースキャン動作を行うと、表示中のメモリーアドレスからスキャン動作をはじめます。

◇メモリーされていないアドレスはスキップします。

◇メモリーアドレスのA及びbはプログラムスキャンのスタート周波数及びエンド周波数に使用するためメモリースキャン時にはスキップします。

オールスキャン動作(全帯域スキャン)

- 1 MHz帯スキャン動作中に本体のFUNCボタンを押して、FUNCモードにし、CLR/STEPボタンを押すと全帯域スキャン動作になります。
(リモコンマイクは、STEP Cボタンです。)
- 再度、FUNCモードにし、CLR/STEPボタンを押すと、1 MHz帯スキャン動作に戻ります。
(リモコンマイクは、STEP Cボタンです。)



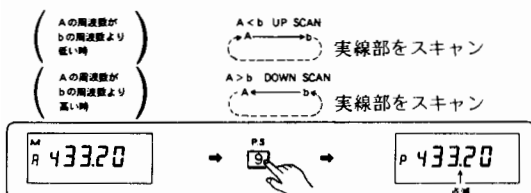
任意の周波数間のスキャン動作方法

(PS: プログラムスキャン)
メモリー周波数を利用して、任意の周波数間をスキャンすることができます。

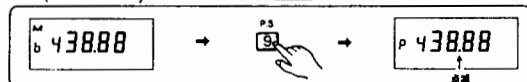
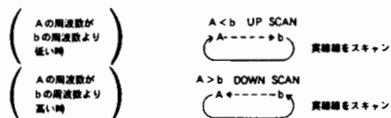
手順



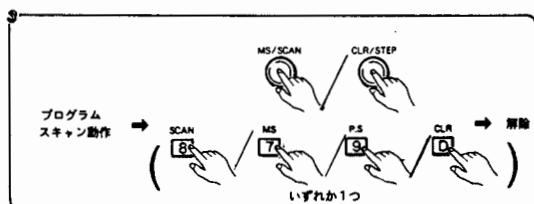
- あらかじめスタート周波数及びエンド周波数をメモリーアドレスAおよびbに設定しておきます。
 - リモコンマイクの PS 9ボタンを押します。
表示部にPが点灯し、プログラムスキャン動作となります。
- ★メモリーアドレスAを表示させてプログラムスキャン動作にすると、AからbのA b間の周波数範囲内のスキャンとなります。
表示部にPが表示され、スタート周波数よりプログラムスキャン動作を始めます。



★メモリーアドレスbを表示させて、プログラムスキャン動作にすると、bからAのb A間周波数範囲外のスキャンとなります。



- スキャン動作を解除する時は、本体のMS/SCANボタンまたは、CLR/STEPボタンを押します。
(リモコンマイクは、SCAN 8, MS 7, PS 9 またはCLR Dボタンです。)



アドバイス

◇メモリーアドレスA及びbに周波数がメモリーされていないと、プログラムスキャンできません。

スキャン方向の変更

スキャン動作中にメインダイヤルツマミにより、スキャン動作の方向が変更されます。
リモコンでは、▼▲ボタンによりスキャンの方向が変更されます。
▼▲ボタンを押すと、押したボタンの方向にスキャン動作をします。
本体のメインダイヤルツマミを回すと、回した方向にスキャン動作が変ります。

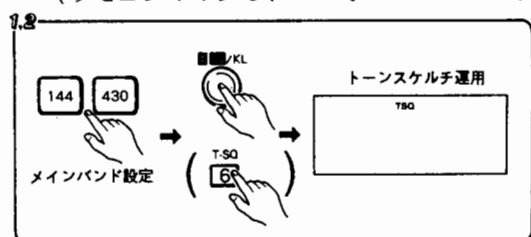
トーンスケルチスキャン動作

トーン周波数が一致した時のみスケルチが開きます。

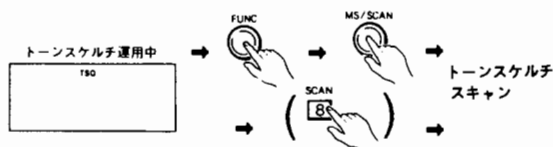
CTN5600を実装していませんとトーンスケルチスキャン動作はしません。

手順

- ① スキャン動作をさせるバンドをMAINにします。
- ② 本体のT SQ/KLボタンを押してトーンスケルチ運用状態にします。
(スキャン動作中でも設定できます)
(リモコンマイクは、T-SQ 6 ボタンです。)



- ③ 本体のFUNCボタンを押してFUNCモードとしてMS/SCANボタンを押します。
リモコンマイクはSCAN 8 ボタンです。
設定したトーン周波数が一致しないと、スケルチが開きません。
なお、トーンスケルチ開放時間の関係で、通常スキャン動作時よりもスキャン動作時間が長く設定されています。
解除するときは、本体のMS/SCANボタンまたは、CLR/STEPボタンを押します。
(リモコンマイクは、SCAN 8, MS 7, PS 9, CLR Dボタンです。)



注意

1MHz帯スキャン/オールスキャン、UPスキャン/DOWNスキャン動作は、144MHz帯、430MHz帯のそれぞれのバンドに対し、独立して設定でき、またそれらはバックアップされています。ポーズスキャン/ビジースキャン動作は、144MHz帯、430MHz帯共用で、セットモード1動作により切り換えられます。

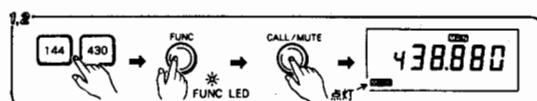
2. 受信音の音量を下げる オートミュート動作

耳ざわりな他のバンドの音量を一定量低減させる機能です。

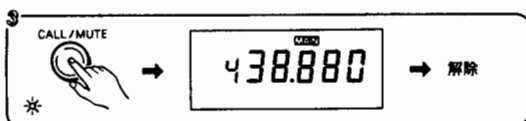
低減量は約12dBです。

手順

- ① MUTEするバンドを選択します。
- ② FUNCモードにし、CALL/MUTEボタンを押します。
表示部にMUTEが表示されオートミュート動作が設定されます。



- ③ FUNCモード中に、もう1度CALL/MUTEボタンを押すと、オートミュート動作が解除されます。



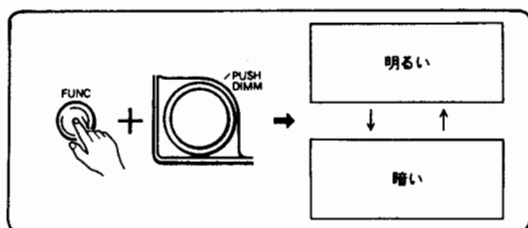
3. 表示部の明るさを変える

LCDバック照明の明るさを2段階に切り替えるディマー(DIMM)機能用のボタンです。

暗いところで使用する時など、ディマー機能を動作させると、表示部が見やすくなります。

手順

本体のFUNCボタンを押しながら、/PUSH DIMMボタンを押すと暗くなり、もう1度押すと元の明るさに戻ります。



4. 操作ボタンを無効にする キーロック機能

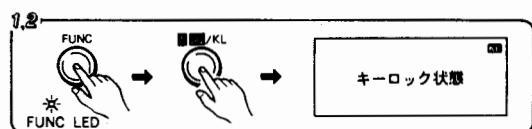
誤操作を防止する為のキーロック機能用ボタンです。

キーロック機能は、各バンド個別に設定することができます。

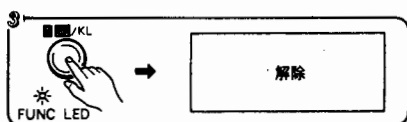
リモコンマイクと本体のキーロック機能は、それぞれ別々に設定することができます。

手順

- ① キーロックさせたいバンドをMAINまたは、SUBバンドモードにします。
- ② 本体のFUNCボタンを押してFUNCモードにした後、T SQ/KLボタンを押します。表示部にKLが表示され、そのバンドがキーロックされます。



- ③ FUNCモード中にもう一度、T SQ/KLボタンを押すと、キーロックが解除されます。



5. リモコンマイクのKL

リモコンマイクのKLスイッチをONにします。

リモコンマイクの表示にKLが表示され、リモコンマイクがキーロックされます。

6. SETモード

下表の各動作を行う機能です。

この機能は、FUNCボタンを押しながらV・M/ENTボタンを押した後、メインダイヤルで表の数字を設定(数字が点灯)すると下表の動作を行います。

リモコンマイクはFUNCボタンを押しながらENT DIRECT*ボタンを押した後、▼▲ボタンです。

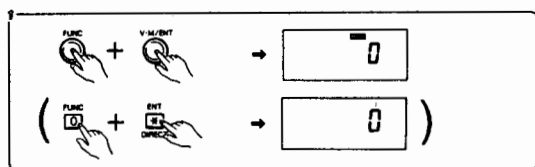
数字 キー	機能
0	BEEP OFF (PAG着信アラーム、DTMF モニター音 VOL B e e pを除く)
1	ビジースキャン (通常はポーズスキャン)
2	PG-C 及び DTMF コード 送出時、Delay Timeを長くする。450ms シフト動作/レピータ動作時は750ms
3	PTT LOCK
4	PAG 着信アラーム 1 回 (通常は 7 回)
5	全ケタ入力
6	KL時のメインダイヤル有効
7	メインダイヤルを押しながら、UP/DOWN すると 1 MHz ず UP/DOWN

SETモードの各機能の設定

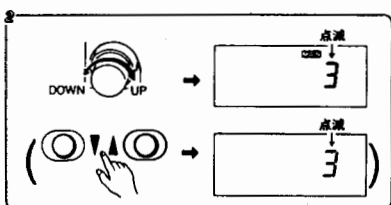
手順

- VFO周波数表示状態において、本体のFUNCボタンを押しながら、V・M/ENTボタンを押します。
(リモコンマイクは、FUNC 0 ボタンを押しながら、ENT DIRECT *ボタンを押します。)

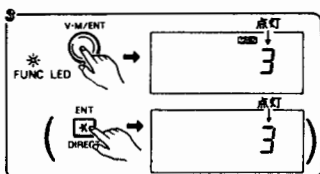
SET表示モードとなります。
設定されていないアドレスは、点滅します。



- 希望のアドレスを本体のメインダイヤルツマミで選びます。
(リモコンマイクは、▼▲ボタンです。)



- FUNCモードにし、V・M/ENTボタンを押します。
(リモコンマイクは、ENT DIRECT *ボタンです。)
表示されているアドレスが点灯し、機能が設定されます。

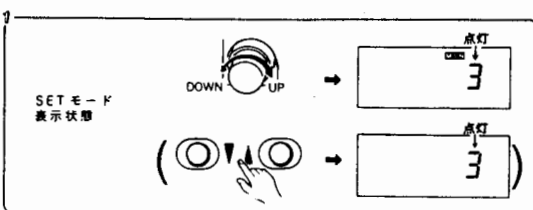


- 本体のFUNCボタンを押しながら、V・M/ENTボタンを押します。
(リモコンマイクは、FUNC 0 ボタンを押しながら、ENT DIRECT *ボタンです。)
VFO周波数表示状態にもどります。

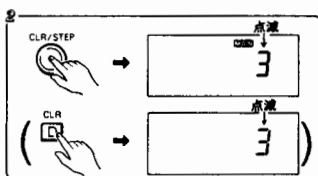
SETモードの各機能の解除

手順

- SETモード表示状態にして、解除希望のアドレスを本体のメインダイヤルツマミで選びます。
(リモコンマイクは、▼▲ボタンです。)



- 本体のCLR/STEPボタンを押します。
(リモコンマイクは、CLR Dボタンです。)
表示されているアドレスが点滅し、機能が解除されます。



- 本体のFUNCボタンを押しながら、V・M/ENTボタンを押します。
(リモコンマイクは、FUNC 0 ボタンを押しながら、ENT DIRECT *ボタンです。)
VFO周波数表示状態にもどります。

注意

- SETモードは、両バンド共用ですので、一方のバンドで設定/解除を行えば他方のバンドも同時に、設定/解除となります。
- VFO表示状態からでないと、SETモードにはなりません。

7. 周波数表示を消す機能

不要なバンドの表示を消すことができます。

手順



- ① 表示を消したいバンドをメインにします。
- ② 本体のFUNCボタンを押しながら、消したいBANDのMAINボタンを押します。
表示が消えるとメインバンドは自動的にもう一方のバンドに移動します。
- ③ 元に戻すには、FUNCボタンを押しながら周波数表示が消えているバンドのMAINボタンを押してください。
ピッ音がして、再び周波数が表示されます。



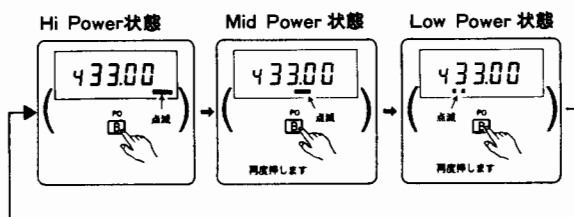
8. 送信出力の切り替え

送信出力が、3段階に切り替えられます。

手順



- ① 本体がFUNCモードの時、REV/POボタンを押します。
(リモコンマイクは、PO Bボタンです。)
- ② ボタンを押す毎に、M, Lが表示部に表示され送信出力が3段階に切り替わります。



— 144MHz帯も同様に操作します。—

表示部の表示	バンド	送信出力	
		C5600	C5600D
無	144MHz帯	10W	50W
	430MHz帯	10W	40W
M	144MHz／430MHz帯	5W	10W
L	144MHz／430MHz帯	1W	3W

9. DTMF機能

本機には、通常のDTMF信号の送出と、DTMFコード(DTMF信号が15桁メモリーされたもの)の送出の2つがあります。

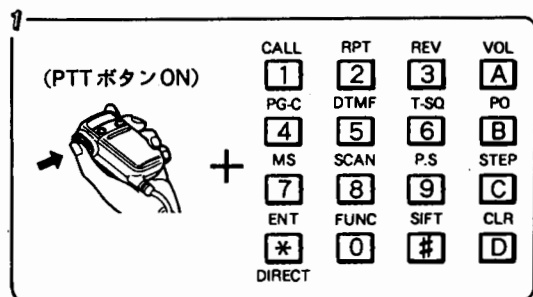
DTMFを使用する場合は、別売り品のDTMユニットCTD5600をお買上げの上、C5600/C5600Dに装着してください。

手順

1. 通常のDTMF信号の送出

- CTD5600を装着し、PTTボタンを押しながら、0～9、A～D、* #ボタンを押すと、DTMF信号が送出されます。

DTMF信号は、ボタンを押している間だけ送出されます。



(DTMFコードメモリーの送出方法ではありません)

2. DTMFコードの送出

DTMFコードメモリー

最大15桁のDTMF信号をDTMF専用メモリーに2つメモリーできます。

DTMF信号を利用した各種遠隔操作等にご利用ください。

メモリーできるコードは0～9、A、B、C、D、*、#です。

入力されたコードと表示部の表示は下記のように対比しています。

0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, A, B, C, D, *, #	←入力ボタン
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F	←表示部

DTMFコードをメモリーする方法

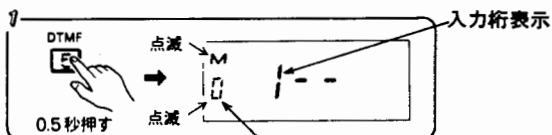
手順

入力例：

- リモコンマイクのDTMF 5 キーを約0.5秒以上押しします。

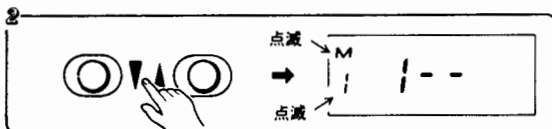
DTMFコード表示モードとなり、Mとコードアドレスが点滅します。

すでに、メモリーが入っているときは、コードアドレスは、点灯となります。



DTMFコードアドレス

- ▼▲ボタンによってコードアドレス番号を設定します。

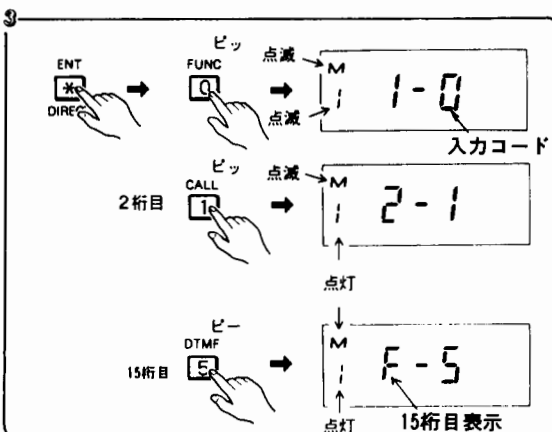


- ENT DIRECT * ボタンを押して、ダイレクト入力モードとします。

次にメモリーするコードを入れます。1桁目を入れると、コードアドレスは、点灯となります。

DTMFコードを入れる毎に桁番号が1つずつ増えます。

15桁目を入力しますと、長いピープ音(ピー)が鳴り登録されます。



アドバイス

◇DTMFコードが15桁に満たない場合は、PTTボタンを押すことで登録されます。

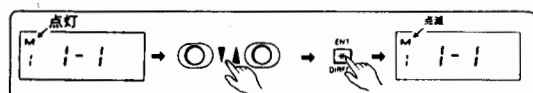
注意

桁番号は、1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, A, b, C, d, E, Fの順に並んでいます。

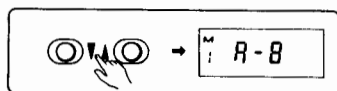
DTMFコードを確認する方法

手順

- ① コードアドレス表示にします。
▼▲ボタンによって希望のコードアドレスを呼出します。
ENT DIRECT * ボタンを押して、ダイレクト入力モードにします。
Mの表示が点滅します。



- ② ▼▲ボタンによって、桁番号に対するDTMFコードを確認することができます。



注意

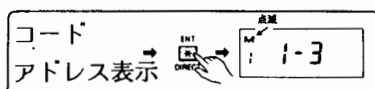
この過程で、DTMFコードのボタンを入力すると、コードが変わってしまいます。

- ③ 確認が終わりましたら、PTTボタンを押して解除します。

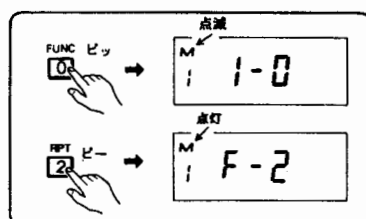
DTMFコードを書き替える方法

手順

- ① DTMFコード書き替えするコードアドレス番号を呼出します。
ENT DIRECT * ボタンを押して、ダイレクト入力モードにします。



- ② メモリーするコードを入力します。(前のコードに上書きします。)



- ③ 15桁目を入力しますと、長いビープ音(ピー)が鳴り登録されます。
Mの表示が点灯します。

アドバイス

DTMFコードが15桁に満たない場合は、PTTボタンを押すことで、入力した15桁の次の桁以降は、クリアーして登録します。
Mの表示が、点灯します。

DTMFコードを途中から変更する方法

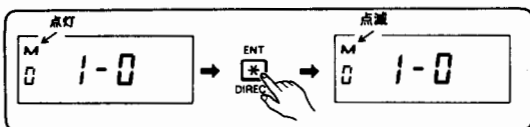
手順

例)

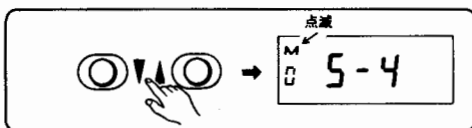
コードアドレス: 0 → 0

DTMFコード: 01234556 → 0123456

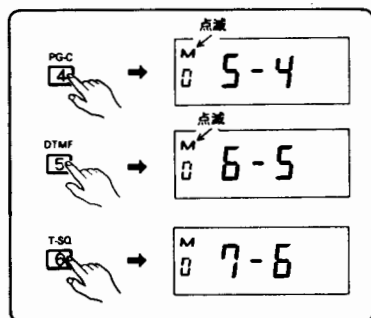
- 1 変更するコードアドレス番号を呼出します。
- 2 ENT DIRECT * ボタンを押して、ダイレクト入力モードにします。



- 3 変更する桁の一つ前の桁を▲▼ボタンにより、表示させます。



- 4 変更する桁の一つ前の桁のDTMFコードから入力します。



- 5 PTTボタンを押して、登録します。

注意

DTMFコードを消去するにはソフトリセットを行わなければなりません。この時、全てのメモリーも同時に消去されます。

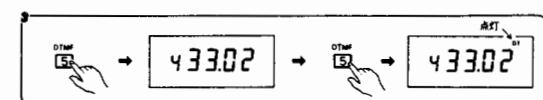
DTMFコードの送出方法

手順

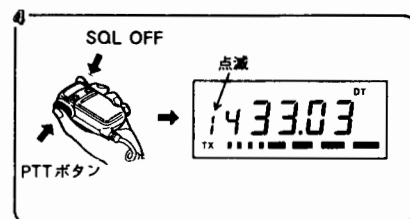
- 1 DTMF 5 ボタンを約0.5秒以上押してDTMFコード表示にします。
- 2 ▼▲ボタンで、希望のコードアドレスを選びます。



- 3 DTMF 5 ボタンを押して元の周波数表示モードにして更にもう 1 回 DTMF 5 ボタンを押すとDTMFモードが設定されます。



- 4 PTTボタンを押しながらSQL OFFボタンを押すとDTMFコードが自動的に送出されます。DTMFコード送出中は送出しているDTMFコードのコードアドレスが点滅します。



アドバイス

DTMFコードを送出する場合、左手の親指でPTTボタンを押しながら人差し指でSQL OFFボタンを押してください。片手で操作できます。

定格

指定無き項目はC5600,C5600Dおよび144MHz帯、430MHz帯共通定格です。

1. 一般仕様

送受信周波数 ……VHF 144.00~145.995MHz
UHF 430.00~439.995MHz

電波型式 ……F3

定格電圧 ……DC13.8V ±15%

消費電流…C5600送信時 (Hi) 3.5A

送信時 (Mid) 2.5A

送信時 (Low) 1.8A

待受受信時 700mA

C5600D送信時 (Hi)144MHz帯 10.5A

430MHz帯 9.5A

送信時 (Mid) 144MHz帯 5.5A

430MHz帯 5.5A

送信時 (Low) 144MHz帯 3.0A

430MHz帯 3.0A

待受受信時 700mA

マイクロホン入力インピーダンス ……600Ω

低周波出力インピーダンス ……4Ω

空中線インピーダンス ……50Ω

使用温度範囲…-20℃~+60℃

アンテナコネクタ ……M型 (ケーブル付)

接地方式…マイナス接地

寸法 (幅×高さ×奥行き)

…C5600 150×50×185mm

C5600D 150×50×210mm

重量…C5600 約1.8kg

C5600D 約2.0kg

2. 受信

受信方式……ダブルスーパーヘテロダイン方式
中間周波数

144MHz帯 1st IF 21.8MHz (Lower)

2nd IF 455kHz (Lower)

430MHz帯 1st IF 23.05MHz (Lower)

2nd IF 455kHz (Lower)

受信感度(12dB SINAD)……-16dBμ(0.158μV)

選択度 ……12kHz以上(-6dB)*

24kHz以上(-60dB)*

スケルチ開放感度……-19dBμ(0.112μV)*

低周波出力 ……3W(10%歪時)

0.5μV入力時S/N比 ……30dB以上

3. 送信

送信出力 ……C5600 HI 10W

MID 5W

LOW 1W

C5600D 144MHz帯 HI 50W

MID 10W

LOW 3W

430MHz帯 HI 40W

MID 10W

LOW 3W

変調方式……リアクタンス変調

スプリアス発射強度 ……-60dB

変調歪 ……3%以下(70%変調時)

(*はJAIA測定法による値)

本機の規格捨て外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

フォーンバンドについて

下表に示されているバンド使用区分がJARL(日本アマチュア無線連盟)によって制定されていますので、この使用区分にそった運用をお願いいたします。

運用の際には使用電波のルールや慣習に十分注意し無用のトラブルが生じないようにご配慮ください。

●JARL 制定「アマチュア・バンド使用区分」

(1989年1月1日実施)

1. 電波の表示

アマチュア局の電波を次のように伝送情報等によって表示する。

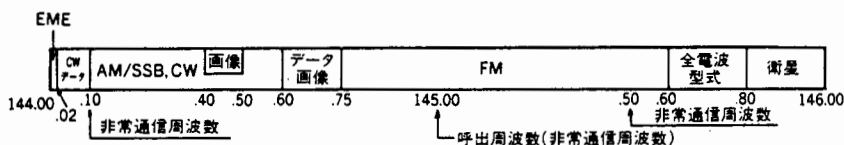
- (1)搬送波をモールス符号により断続した電波は、「CW」とする。(例：A1電波)
- (2)搬送波を音声又はモールス符号により振幅変調した電波（音声等による交信を併用する画像又はデータ通信の電波を含む。）は「AM/SSB」、周波数変調のものについては「FM」とする。(例：「AM/SSB」：A2、A3、A3J電波等、「FM」：F2、F3電波第)
- (3)搬送波をコンピュータ等によって処理した情報により変調した電波は、「データ」とする。〔例：F1(RTTY、パケット等)電波、F2(28MHz以上のバンドにおけるRTTY、パケット等)電波等〕

- (4)搬道波を映像により夜調した電波(ATV電波を除く)は「画像」、TV電波のうち占有周波数帯幅が40kHzを超えるもの（音声を併用した場合を含む。）については「ATV」(FSTV)とする。〔例：「画像」：3A4(FAX)、3F4(FAX)、3A9C(FAX)、F9(FAX)、3F5(SSTV)電波等、「ATV」：A5、A5C、A9、A9C、F5、F9電波等〕
- (5)JARLの開設するアマチュア業務の中断用無線局(レピータ局)に使用する電波は、「レピータ」とする。
- (6)人工衛星に開設するアマチュア局に使用する電波は、「衛星」とする。
- (7)FMの連絡設定用の周波数は、「呼出周波数（非常通信周波数）」とする。
- (8)アマチュア局に指定されるすべての電波は、「全電波型式」とする。
- (9)月面反射通信、流星散乱通信、オーロラ反射通信等に使用する電波は、「EME」とする。
- (10)標識(パイロット)信号の送信のみを行う場合に使用する電波は、「ビーコン」とする。

2. 実施期日等

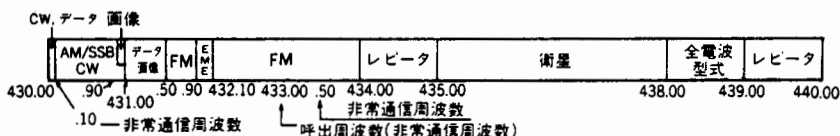
- (1)1.9~28MHz帯の使用区分については、1988年4月1日から実施する。
- (2)50MHz帯~10.4GHz帯の使用区分は、1989年1月1日から実施する。なお、2400MHz~10.4GHzの使用区分は、暫定的なものとする。
- (3)全使用区分については、1991年に見直すことを予定している。

■144MHz帯



- (注1) 144.10-144.20MHzの周波数帯は、主に遠距離通信に使用する。
- (注2) データ及び画像通信の区分は、144.60-144.75MHzの周波数帯のものについてはFM送信機、その他の周波数帯のものについてはSSB送信機を使用する。
- (注3) 144.75-145.60MHzの周波数帯のFM電波の占有周波数帯幅は、16kHz以下とする。

■430MHz帯



- (注1) データ及び画像通信の区分は、431.00-431.50MHzの周波数帯のものについてはFM送信機、その他の周波数帯のものについてはSSB送信機を使用する。
- (注2) 431.50-434.00MHzの周波数帯のFM電波の占有周波数帯幅は、16kHz以下とする。
- (注3) レピータの入出力周波数は、別に定める。
- (注4) 435.00-438.00MHzの周波数帯は、1991年12月31日までは、ATV通信に使用することができる。

申請書の書き方

本機によるアマチュア無線局の申請には、市販の申請書に下記事項を記入し、間違いのないことを確認して申請してください。

C5600

【工事設計書】

区 分		第 1 送 信 機	第 2 送 信 機
発射可能な電波の型式 周波数の範囲		F 3 144MHz帯 430MHz帯	
変調の方式		リアクタンス変調	
終 段 管	名 称 個 数	144MHz帯 S-AV5×1 430MHz帯 M57752M×1	
	電 圧 ・ 入 力	144MHz帯 13.4V 20W 430MHz帯 13.4V 21W	
送信空中線の型式			
その他工事設計		電波法第3章に規定する条件に合致している。	

●C5600はJARL登録機種
ですので、送信機系統図
の記入を省略することが
できます。

●登録番号 S64

第1送信機系統図

●送信機型名 C5600

参考：送信空中線の形式は
単一型、八木型が一
般的です。

C5600D

【工事設計書】

区 分		第 1 送 信 機	第 2 送 信 機
発射可能な電波の型式 周波数の範囲		F 3 144MHz帯 430MHz帯	
変調の方式		リアクタンス変調	
終 段 管	名 称 個 数	144MHz帯 S-AV17×1 430MHz帯 M57788M×1	
	電 圧 ・ 入 力	144MHz帯 12.5V 100W 430MHz帯 13.0V 75W	
送信空中線の型式			
その他工事設計		電波法第3章に規定する条件に合致している。	

●C5600DはJARL登録機種
ですので、送信機系統図
の記入を省略することが
できます。

●注意：C5600DはVHF50W、
UHF40Wモデルですので、
第2級アマチュア無線技士
以上の資格が必要です。

●登録番号 S65M

第1送信機系統図

●送信機型名 C5600D

参考：送信空中線の型式は
単一型、八木型が一
般的です。

故障とお考えの前に

サービスを依頼される前に、ご面倒ですが次のことをお調べください。

下記の項目をチェックしてなおらない場合は、お買い上げになった販売店、お近くの弊社営業所、または弊社サービスセンターにご相談ください。

	現 象	主 な 原 因 お よ び 処 置
電 源 関 係	電源が入らない。	* ヒューズの確認。 * DCコードの抜け。 * DC IN 13.8V端子に過電圧(直流 18V以上)が加わっている。 DC IN 13.8Vのプラグを抜き、DC電源の電圧を確認してください。
表 示 関 係	片方のバンドの周波数表示が消えたまま。 表示部が暗い。	* 表示部を消す動作です。 * DIMM動作です。
受 信 関 係	強い信号しか受信しない。 スケルチが閉じない。ザーという音が出ている。 信号を受信しない。 受信音がしない。 受信音が小さい。 リモコンマイクから音量調節ができない。	* SQLツマミが時計方向に廻し切ってある。 * アンテナが異常。 * 同軸ケーブルの異常。 * リモコンマイクによってスケルチオフになっている。 * アンテナが外れている。 * 同軸ケーブルが外れている。 * トーンスケルチ動作中は、同一トーン周波数でないと、受信音が聞こえません。 * 外部スピーカーの接続確認。 * 音量ボリュームの位置を確認。 * ページングモードまたは、コードスケルチモードになっている。 * オートミュート動作になっている。 * 本体ボリュームがリモートポジションになっていない。 (反時計方向に回し切っていない)
送 信 関 係	送信出力が少ない。	* アンテナとの整合が悪い。 * Lowパワーモードになっている。 * アンテナが外れている。 * アンテナが接続されていない。
レ ピ ー タ ー 関 係	自動的に RPT 表示になる。 レピーター局をアクセスしない。 表示部に OFF が表示される。	* JARL 設定の RPT 周波数になると、自動的に RPT を表示します。 * トーン周波数が異なっている。 * レピーター局との距離が遠い。 * シフト周波数が異なっている。 * シフト方向が+になっている。 * シフトされた周波数が OFF バンドです。
ス キ ヤ ン 関 係	スキャンしない。 メモリスキャンしない。 プログラムスキャンしない。	* SQLツマミが反時計方向に廻し切ってある。 SQLツマミ調節をしてください。 * メモリー周波数がメモリーされていないと、メモリスキャンしません。 * スタート周波数とエンド周波数がメモリーされていない。

	現 象	主 な 原 因 お よ び 処 置
メモ リ 関 係	メモリーの消去ができない。	* 消したいバンドキーから手を離さないで、CLR/STEPボタンを押します。
ペ ー ジ ン グ 関 係	ページング動作しない。 表示部にEが表示される。 コードが設定できない。	* CTD5600(別売り品)が実装されていない。 * ページング動作は、コードのメモリーが必要です。 * 相手局とコードが一致していない。 * 相手局または自局の電波が届かない。 * 相手局コードの読み取りエラー表示です。 * CTD5600(別売り品)が実装されていない。
D T M F 関 係	DTMF 信号が送出されない。	* あらかじめコードの設定が必要です。
そ の 他	ビープ音がしない。	* SETモード0でビープオフが設定されている。

アクセサリ

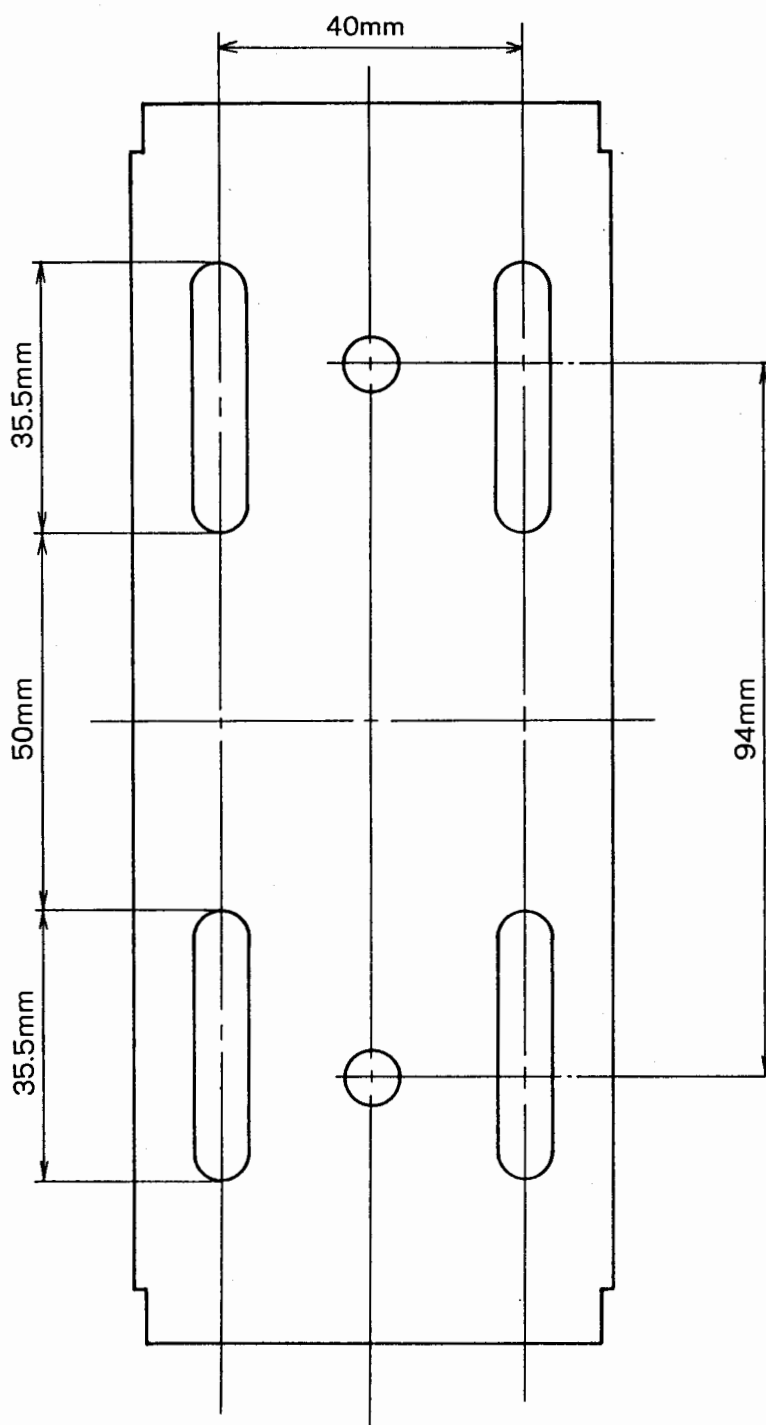
本機をより楽しくご利用して頂くよう豊富なアクセサリが用意されています。
アクセサリの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用下さい。

CTD5600：DTMF（タッチトーン）ユニット
CTN5600：CTCSS（トーンスケルチ）ユニット
CAW560：デュアルマイクケーブル
CAW561：マイク延長ケーブル（長さ2m）
CAW562：マイク延長ケーブル（長さ4m）
CSK12：外部スピーカー

保証・アフターサービスについて

1. この商品には保証書を別途添付しております。
保証書は「販売店印・保証期間」をご確認のうえ、販売店からお受取いただき、よくお読みの上大切に保存してください。
2. 保証期間はご購入日より1年間です。
正常なご使用状態で、この期間内に万一故障の節は、ご購入販売店または弊社営業所で保証書記載事項に基づき、「無償修理」いたします。

3. 保証期間経過後の修理
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。
4. 補修用部品の詳細・ご転居等アフターサービス
についての不明な点は、ご購入販売店または別紙の弊社営業所に遠慮なくご相談ください。



ボタン操作一覧

無線機側

直接操作した時の機能	ボタン、ツマミ類	FUNCボタンを押した後の機能 (FUNCモードLED点灯中)	FUNC ボタンを押しながら押した時の機能
電源のON/OFF	VOL P.PWR	——	ソフトリセット動作 (2回押します。)
バンド設定	144,430	——	144MHz帯の表示を消す機能 430MHz帯の表示を消す機能
周波数のUP,DOWN メモリアドレス番号の UP, DOWN	▽ ▲ DOWN, UP	——	——
サブバンド設定	SUB	——	——
メモリスキャン動作	MS/SCAN	通常スキャン動作	——
ページング動作 コードスケルチ動作 押し続けるとコード表示	PG-C/DT	DTMF動作	——
メモリー周波数呼び出し	V・M/ENT	メモリー書き込み動作	SET(セット)モード動作
クリアー動作	CLR/STEP	チューニングステップ	——
呼び出し周波数の呼び出し	CALL/MUTE	オーディオ信号のオートミュート動作	——
トーンスケルチ動作 ボタンを押し続けるとトーン周波数表示	T SQ /KL	操作ボタンロック動作	——
レピーター動作	RPT/SHIFT	シフト方向の切り換え ボタンを押し続けるとシフト周波数表示	——
レピーター動作中の送受信 周波数を反転	REV/PO	送信出力の切り換え	——
周波数を変える機能	メインダイヤルツマミ	——	照明を暗くする機能

リモコンマイク側

直接押した時の機能	ボタン名	機 能
呼び出し周波数の呼び出し	CALL 1	数字1の入力 (周波数設定モード時)
レピーター動作	RPT 2	数字2の入力 (周波数設定モード時)
レピーター動作中の送受信周波数を反転	REV 3	数字3の入力 (周波数設定モード時)
リモコンマイクによる音量調節モード	VOL A	DTMF信号Aの送出 (PTTボタンを押しながら押してください。)
ページング動作 コードスケルチ動作 押し続けるとコード表示	PG-C 4	数字4の入力 (周波数設定モード時)
DTMF動作	DTMF 5	数字5の入力 (周波数設定モード時)
トーンスケルチ動作	T.SQ 6	数字6の入力 (周波数設定モード時)
送信出力の切り換え	PO B	DTMF信号Bの送出 (PTTボタンを押しながら押してください。)
メモリスキャン動作	MS 7	数字7の入力 (周波数設定モード時)
通常スキャン動作	SCAN 8	数字8の入力 (周波数設定モード時)
プログラмсキャン動作	P.S 9	数字9の入力 (周波数設定モード時)
チューニングステップ動作	STEP C	DTMF信号Cの送出 (PTTボタンを押しながら押してください。)
メモリー書き込み動作 周波数設定モード	ENT *	DTMF信号*の送出 (PTTボタンを押しながら押してください。)
ファンクションモード設定	FUNC 0	数字0の入力 (周波数設定モード時)
シフト方向の切り換え	SIFT #	DTMF信号#の送出 (PTTボタンを押しながら押してください。)
クリアー動作	CLR D	DTMF信号Dの送出 (PTTボタンを押しながら押してください。)
周波数のUP, DOWN メモリーアドレス番号のUP, DOWN コードアドレス番号のUP, DOWN	▼▲	音量調節モードの時は、 音量調節として動作

UP-DOWNボタン操作

ボタンを押す時の状態	▲ボタンを押した時	▼ボタンを押した時
VFO, 呼出し周波数表示 メモリー周波数書き換え時	表示周波数から周波数アップ	表示周波数から周波数ダウン
メモリー周波数表示	メモリーアドレスアップ	メモリーアドレスダウン
メモリー周波数書き換え時	表示周波数から周波数アップ	表示周波数から周波数ダウン
PG-Cコード呼出し時	コードアドレス番号アップ	コードアドレス番号ダウン
PG-Cコード書き換え時	コード各桁ごとのアップ	コード各桁ごとのダウン
DTMFコード呼出し時	コードアドレスアップ	コードアドレスダウン
シフト周波数書き換え時	シフト周波数アップ	シフト周波数ダウン
トーン周波数書き換え時	トーン周波数アップ	トーン周波数ダウン
VOLモード時	音量増大	音量減少

日本マランツ株式会社

本 社 〒228 神奈川県相模原市相模大野 7 丁目 35 番 1 号
営業本部 〒150 東京都渋谷区恵比寿南 1 丁目 11 番 9 号

ご注意：お問合せは日本マランツ(株)各営業所で承っております
ので全国営業所一覧をご覧ください。